

福岡赤十字病院内科専門研修プログラム
(研修期間 3 年間)

新専門医制度 内科領域

福岡赤十字病院内科専門研修プログラム

内科専門医研修プログラム・・・・・・・・	P. 1
専門研修施設群・・・・・・・・	P. 21
専門研修プログラム管理委員会・・・・	P. 814
専攻医研修マニュアル・・・・・・・・	P. 837 6
指導医マニュアル・・・・・・・・	P. 948 7
各年次到達目標・・・・・・・・	P. 968 9
週間スケジュール・・・・・・・・	P. 970、981

文中に記載されている資料「専門研修プログラム整備基準」「研修カリキュラム項目表」「研修手帳（疾患群項目表）」「技術・技能評価手帳」は、日本内科学会 Web サイトでもご参照可能です。

1. 理念・使命・特性

理念【整備基準1】

1) 本プログラムは、福岡・糸島医療圏南部の中心的な急性期病院である福岡赤十字病院を基幹施設として、福岡・糸島医療圏及び近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て福岡県の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練し、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として福岡県全域とその近隣医療圏を支える内科専門医の育成を行います。

2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設1～2年間＋連携・特別連携施設1～2年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度の研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じ、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能を修得します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に医師としてのプロフェッショナルリズムとリサーチマインドの素養も修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践できる先導者の持つ能力です。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験していくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験が加わることに特徴があります。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします。

使命【整備基準2】

1) 福岡・糸島医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナルリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。

2) 本プログラムを修了し、内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準を高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供し、サポートできる研修を行います。

3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。

4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

1) 本プログラムは、福岡・糸島医療圏南部の中心的な急性期病院である福岡赤十字病院を基幹施設として、福岡・糸島医療圏南部並びに福岡・山口・佐賀・大分医療圏にある連携施設・特別連携施設で内科専門研修を行い、超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練します。研修期間は基幹施設 1～2 年間＋連携施設・特別連携施設概ね 1～2 年間の合計 3 年間になります。

2) 福岡赤十字病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院から退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整も包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標の到達とします。

3) 基幹施設である福岡赤十字病院は、36 診療科（外科の細分化専門科を含む）、511 床を有し、ヘリポートも併設した福岡・糸島医療圏南部の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモディージェーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

また、災害時における国内外への医療チームの派遣など災害救護、国際医療救援活動にも携わり、社会貢献にも力を入れています。さらに、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

福岡赤十字病院の内科系診療科（区分）としては、「総合診療科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「糖尿病・代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液・腫瘍」、「脳血管・神経」、「膠原病」、「感染症」内科を標榜しています。「救急」は病院全体として救急車の受け入れを行う「救急科」と全診療科で対応していますが、入院になった場合、その多くを内科系診療科が担当しています。内科専門領域の 12 領域では「アレルギー」が専門科として標榜していませんが、「アレルギー」疾患は呼吸器や膠原病内科を主としてほぼ全科で対応可能で、さらに連携施設の福岡病院ではアレルギー科を標榜しており、専門性を深めた研修も可能です。目標 70 疾患群（終了認定は 56 疾患群以上）の 9 割以上は福岡赤十字病院単独でも経験可能と推測されます。さらに連携施設（P. 21 福岡赤十字病院連携施設一覧参照）と専門研修施設群を構築することにより、ほぼ全疾患群の経験が可能と考えられます。

4) 基幹施設である福岡赤十字病院及び連携病院での 2 年間（専攻医 2 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、80 症例以上を経験し、日本内科学会の専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます。（実際は 70 疾患群の 9 割程度の経験が可能と推測しています）そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます。（P. 99 別表 1「内科専攻研修において求められる「疾患群」「症例数」「病歴要約提出数」について」参照）

- 5) 福岡赤十字病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修 2 年目から 3 年目の間で 1～2 年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- 6) 基幹施設である福岡赤十字病院での 1～2 年間と専門研修施設群での 1～2 年間（専攻医 3 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会の専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます。（実際は 70 疾患群の 9 割以上を登録出来ると推測しています）可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」「研修に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします。（別表 1「内科専攻研修において求められる「疾患群」「症例数」「病歴要約提出数」について」参照）

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかかわる場は多岐にわたりますが、それぞれの場に応じて、

- 1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
- 2) 内科系救急医療の専門医
- 3) 病院での総合内科（Generality）の専門医
- 4) 総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得する、それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

福岡赤十字病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と general なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらのいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、福岡・糸島医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者には subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などで研究を開始する準備を整える経験をできることも、本施設群で研修が果たすべき成果です。

2. 募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1) ～ 7) により、福岡赤十字病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 7 名とします。

- 1) 福岡赤十字病院内科後期研修医は現在 3 学年併せて 12 名で 1 学年 3～6 名の実績があります。
- 2) 公的病院である福岡赤十字病院として雇用人員数に一定の制限があるので、募集定員の大幅増は現実性に乏しいです。
- 3) 剖検体数は 2013 年度 13 体、2014 年度 15 体、2015 年度 9 体です。

表. 福岡赤十字病院診療科別診療実績

2014 年実績	入院患者実数 (人/年)	外来延患者数 (延人数/年)
総合診療科	364	9,960
消化器内科	887	10,028
循環器内科	1,066	12,721
内分泌内科	26	5,234
糖尿病・代謝内科	555	21,042
腎臓内科	737	15,181
呼吸器内科	536	5,987
血液・腫瘍内科	306	1,991
脳血管・神経内科	333	3,136
膠原病内科	182	5,215
感染症内科	135	934
救急科 (救急車)	2,015 (うち救急科としての入院(中毒など)55、その他の診療科1,960、多くは内科系)	5,593 (うち救急部が初期対応4,887、各診療科が最初から対応706)

2014 年度の実績

- 4) 内分泌領域の入院患者は少なめですが、外来患者診療を含め、1 学年 7 名に対し十分な症例を経験可能です。「アレルギー」疾患は呼吸器や膠原病内科を主としてほぼ全科で対応可能です。
- 5) 内科専門領域の 12 領域の専門医は「内分泌」、「アレルギー」、以外は少なくとも 1 名以上在籍しています。(P. 21「福岡赤十字病院内科専門研修 施設群」参照)
- 6) 1 学年 7 名までの専攻医であれば、専攻医 2 年修了時に「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた 45 疾患群、80 症例以上の診療経験 29 病歴要約の作成は達成可能です。(実際は 70 疾患群の 9 割程度の経験が可能と推測しています)
- 7) 専攻医 2～3 年目に研修する連携施設・特別連携施設には、高次機能・専門病院 5 施設、地域基幹病院 10 施設および地域医療密着型病院 5 施設、計 20 施設あり、専攻医のさまざまな希望・将来像に対応可能です。
- 8) 専攻医 3 年修了時に「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた少なくとも 56 疾患群、120 症例以上の診療経験は達成可能です。(実際は 70 疾患群の 9 割以上を経験出来ると推測します)

3. 専門知識・専門技能とは

- 1) 専門知識【整備基準 4】[「内科研修カリキュラム項目表」参照]

専門知識の範囲(分野)は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液・腫瘍」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病および類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されます。

「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」、

「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標（到達レベル）とします。

2) 専門技能【整備基準 5】[「技術・技能評価手帳」参照]

内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力が加わります。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

4. 専門知識・専門技能の習得計画

1) 到達目標【整備基準 8-10】(P.99 別表 1「内科専攻研修において求められる「疾患群」「症例数」「病歴要約提出数」について」参照)

主担当医として「研修手帳(疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。

内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで、専門研修(専攻医)年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。

○専門研修(専攻医) 1 年:

- ・症例:「研修手帳(疾患群項目表)」に定める 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群、40 症例以上を経験し、日本内科学会の専攻医登録評価システム(J-OSLER)にその研修内容を登録します。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます。
- ・専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して日本内科学会の専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録します。
- ・技能:研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、subspecialty 上級医とともに行うことができます。
- ・態度:専攻医自身の自己評価と指導医、subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修(専攻医) 2 年:

- ・症例:「研修手帳(疾患群項目表)」に定める 70 疾患群のうち、通算で少なくとも 45 疾患群、80 症例以上の経験をし、日本内科学会の専攻医登録評価システム(J-OSLER)にその研修内容を登録します。
- ・専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して日本内科学会の専攻医登録評価システム(J-OSLER)への登録を終了します。
- ・技能:研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、subspecialty 上級医の監督下で、行うことができます。
- ・態度:専攻医自身の自己評価と指導医、subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修(専攻医)1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修(専攻医) 3 年:

- ・症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例（2023 年度以前登録専攻医は計 160 症例）以上（外来症例は 1 割まで含むことができる）を経験し、日本内科学会 の専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します。
- ・専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します。
- ・既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）による査読を受けます。査読者の評価を受け、形成的により良いものへ改訂します。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します。
- ・技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができます。
- ・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

専門研修修了には、すべての病歴要約 29 症例の受理と、少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 120 症例（2023 年度以前登録専攻医は計 160 症例）以上の経験を必要とします。日本内科学会の専攻医登録評価システム（J-OSLER）における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します。

福岡赤十字病院内科施設群専門研修では、「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 1～2 年間＋連携・特別連携施設 1～2 年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間 1 年単位で延長します。一方で、カリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

2) 臨床現場での学習【整備基準 13】内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察によって獲得されます。内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します。（下記 ①～⑥参照）この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかった症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

- ① 内科専攻医は、担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
- ② 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレ

ゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。

- ③ 総合内科外来（初診を含む）や **Subspecialty** 診療科外来（初診を含む）を少なくとも週 1 回、1 年以上担当医として経験を積みます。
『救命救急センターの内科外来（平日夕方）で内科領域の救急診療の経験を積む。』
- ④ 内科系当直医として時間外救急患者の診療経験を積みます。別に救急科ローテーション中は日勤または夜勤で救急車に対応します。
- ⑤ 内科当直医として病棟急変などの経験を積みます。
- ⑥ 必要に応じて、**Subspecialty** 診療科検査を担当します。

外来診療に関しては、主に福岡赤十字病院での研修中に行います。総合診療科（福岡赤十字病院では内科に所属）と密に連携し、内科一般または **Subspecialty** 診療科担当として外来を担当します。新患担当が主ですが、その後に再来が必要となった場合は、外来研修期間中はそのまま担当します。診療内容に関しては指導医に適宜相談、チェックを受け、さらにプログラム統括責任者がその内容と進捗状況を確認します。

3) 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

1) 内科領域の救急対応、2) 最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、3) 標準的な医療安全や感染対策に関する事項、4) 医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、5) 専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて、以下の方法で研鑽します。

- ① 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会
- ② 医療倫理 1 回・医療安全 5-6 回・感染防御 2 回に関する講習会（基幹施設 2014 年度実績 9 回、ただし病院職員全体を対象とするもののみの回数）
※ 内科専攻医は年に 2 回以上受講します。
- ③ **CPC**（基幹施設 2014 年度実績 14 回）
- ④ 研修施設群合同カンファレンス（2017 年度:年 2 回開催予定）
- ⑤ 地域参加型のカンファレンス（基幹施設: サザンハートカンファレンス、サザンキドニーカンファレンス、サザンブレインカンファレンス、サザン **General Medicine (SGM)** 研究会、南区糖尿病を考える会、筑紫糖尿病研究会、福岡南・筑紫地区消化器カンファレンス、胃守会、南区合同症例検討学会、病診連携セミナー、膠原病疾患を考える会、**Team Myeloma Conference** 等；2014 年度実績 24 回）
- ⑥ **JMECC** 受講（基幹施設:2015 年度開催実績 2 回:受講者 11 名）
※ 内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講します。
- ⑦ 内科系学術集会（下記「7. 学術活動に関する研修計画」参照）
- ⑧ 各種指導医講習会/**JMECC** 指導者講習会
など

4) 自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では、知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し、意味を説明できる）に分類、技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる）、B（経験は少数例だが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる）、C（経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類、さらに、症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した）、B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した））、C（レクチャー、セミナー、学会が

公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した」と分類しています。
（「研修カリキュラム項目表」参照）

自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法で学習します。

- ① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
- ② 日本内科学会雑誌にある MCQ
- ③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題
など

5) 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム【整備基準 41】

日本内科学会の専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて、以下を web ベースで日時を含めて記録します。

- ・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 120 症例（2023 年度以前登録専攻医は 160 症例）の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
- ・専攻医による逆評価を入力して記録します。
- ・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います。
- ・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。
- ・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13、14】

福岡赤十字病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は、施設ごとに実績を記載しました。（P. 21「福岡赤十字病院内科専門研修施設群」参照）

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である福岡赤十字病院臨床研修センター（仮称）が把握し、定期的に E-mail など専攻医に周知し、出席を促します。

6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6、12、30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研習を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。

福岡赤十字病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても、

- ① 患者から学ぶという姿勢を基本とする。
- ② 科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う。（EBM; evidence based medicine）
- ③ 最新の知識、技能を常にアップデートする。（生涯学習）
- ④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う。
- ⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。

併せて、

- ① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。

- ② 後輩専攻医の指導を行う。
- ③ メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。
を通じて、内科専攻医としての教育活動を行います。

7. 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

福岡赤十字病院内科専門研修施設群は基幹病院、連携病院、特別連携病院のいずれにおいても、

- ① 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します。(必須)
※ 日本内科学会本部または支部主催の生後教育講演会、年次講演会、CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します。
- ② 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。
- ③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。
- ④ 内科学に通じる基礎研究を行う。

を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者 2 件以上行います。

なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、福岡赤十字病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。

8. コア・コンピテンシーの研修計画[整備基準 7]

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力です。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能である。その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。

福岡赤十字病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても指導医、subspecialty 上級医とともに下記 ①～⑩ について積極的に研鑽する機会を与えます。

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である福岡赤十字病院臨床研修センター（仮称）が把握し、定期的に E-mail など専攻医に周知し、出席を促します。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。

- ① 患者とのコミュニケーション能力
- ② 患者中心の医療の実践
- ③ 患者から学ぶ姿勢
- ④ 自己省察の姿勢
- ⑤ 医の倫理への配慮
- ⑥ 医療安全への配慮
- ⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
- ⑧ 地域医療保健活動への参画
- ⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
- ⑩ 後輩医師への指導

※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけでなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11、28】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須である。福岡赤十字病院内科専門研修施設群研修施設は福岡・糸島医療圏南部及び近隣医療圏の医療機関から構成されています。

福岡赤十字病院は、36 診療科（細分化した外科専門科も含む）、511 床を有し、ヘリポートも併設した福岡・糸島医療圏南部の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核である。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディージーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。さらに、災害時における国内外への医療チームの派遣などの災害救護、国際医療救援活動にも携わり、社会貢献にも力を入れています。

連携施設、特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である九州大学病院、九州大学別府病院、九州がんセンター、小倉医療センター、製鉄記念八幡病院、地域基幹病院である済生会二日市病院、原三信病院、福岡市民病院、山口赤十字病院、福岡山王病院、佐賀県医療センター好生館、福岡中央病院、高木病院、下関市立市民病院、和白病院、および地域医療密着型病院である西福岡病院、福岡病院、白十字病院、今津赤十字病院、嘉麻赤十字病院、[門司掖済会病院](#)、[福岡ゆたか中央病院](#)、浜の町病院、済生会福岡総合病院、JCHO 九州病院、北九州市立医療センター、聖マリア病院、小倉記念病院、九州医療センター、九州労災病院、松山赤十字病院、飯塚病院、[前田病院](#)、[永富脳神経外科病院](#)、で構成しています。

連携施設はいずれも専門性を高めた病院で、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。九州がんセンターは九州で唯一のがん専門診療施設であり、諸臓器を主に腫瘍系疾患の理解を深めるとともに、専門的ながんの薬物療法や緩和医療で経験を積むことが可能です。福岡病院では特に呼吸器疾患を急性期から慢性期まで広く学ぶことが可能で、また心療内科やアレルギー科を標榜、小児科や耳鼻咽喉科等と連携して診療に当たっており、貴重な経験が出来ると考えます。済生会二日市病院は地域に密着した病院で中でも循環器内科・呼吸器内科・消化器内科を中心に内科診療を実施しています。

特別連携施設は地域医療密着型病院であり、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療を研修します。今津赤十字病院は福岡市内ではありますが、博多港の対岸の糸島半島の風光明媚な地にあり、高齢者急性期疾患とリハビリテーション、並びに認知症の診療を柱とする老年医療を推進しています。嘉麻赤十字病院は、福岡県南東部地域の公的病院として急性期から在宅医療、亜急性期の医療サービスを提供するとともに地域住民の健康診断体制も整えています。ともに地域の住民とじっくりと向き合った医療を実践する機会が得られると考えます。

福岡赤十字病院内科専門研修施設群（P. 21）は、福岡・糸島医療圏及び近隣医療圏の医療機関から構成しています。

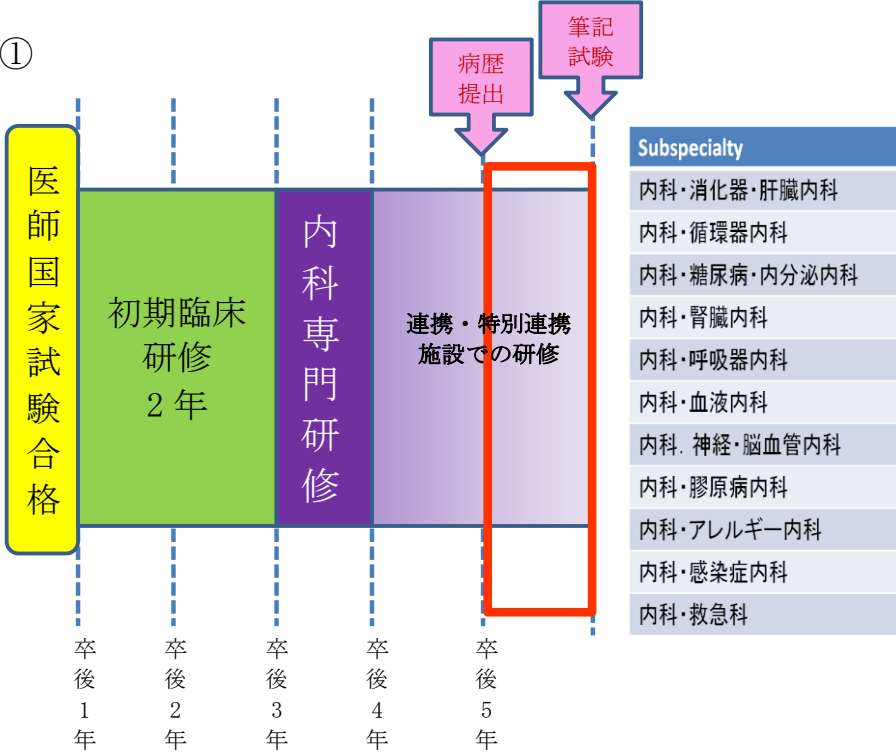
特別連携施設である今津ならびに嘉麻赤十字病院での研修は、福岡赤十字病院のプログラム管理委員会と研修委員会が管理と指導を行います。福岡赤十字病院の担当指導医が、今津ならびに嘉麻赤十字病院での上級医とともに、専攻医の研修指導にあたり、指導の質を保ちます。

10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28、29】

福岡赤十字病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院から退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。

福岡赤十字病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

11. 内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】



例 1. 福岡赤十字病院内科専門研修プログラム（概念図）

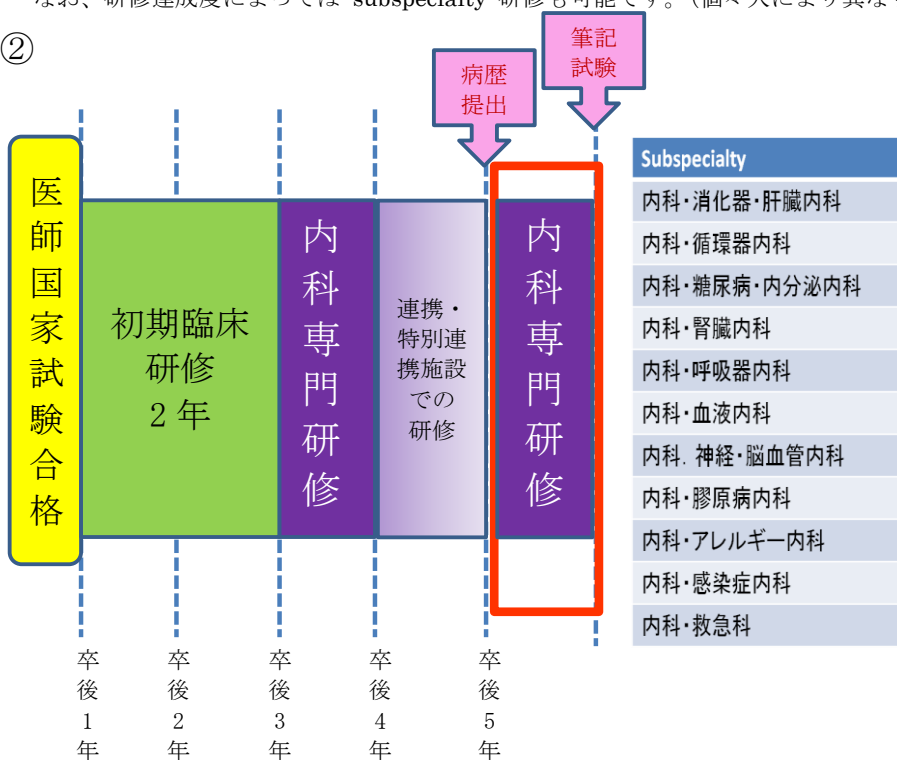
基幹施設である福岡赤十字病院内科で、専門研修（専攻医）1年目に1年間の専門研修を行います。

専攻医1年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる

360 度評価（内科専門研修評価）などを基に、専門研修（専攻医）2 年目の研修施設を調整し決定します。病歴提出を終える専門研修（専攻医）3 年目の 1 年間は連携施設、特別連携施設で研修をします。（例 1）

なお、研修達成度によっては subspecialty 研修も可能です。（個々人により異なります）

②



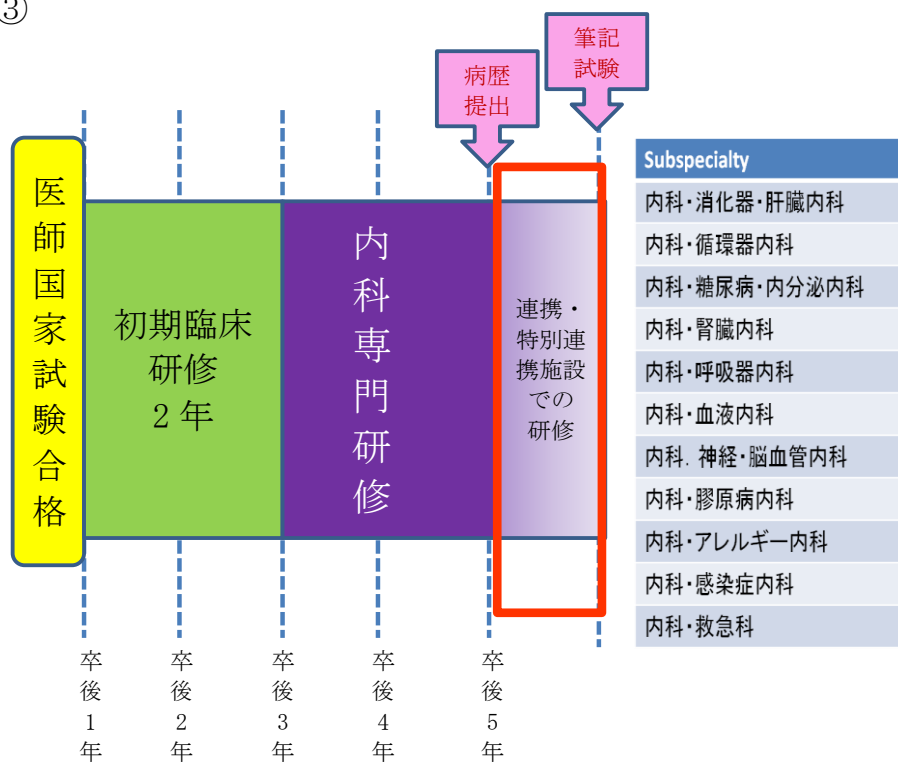
例 2. 福岡赤十字病院内科専門研修プログラム（概念図）

基幹施設である福岡赤十字病院内科で、専門研修（専攻医）1 年目に 1 年間の専門研修を行います。

専攻医 1 年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に、専門研修（専攻医）2 年目の研修施設を調整し決定します。病歴提出を終える専門研修（専攻医）3 年目の 1 年間は基幹施設で研修をします。（例 2）

なお、研修達成度によっては subspecialty 研修も可能です。（個々人により異なります）

③



例 3. 福岡赤十字病院内科専門研修プログラム（概念図）

基幹施設である福岡赤十字病院内科で、専門研修（専攻医） 1 年目、2 年目の 2 年間、専門研修を行います。

専攻医 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に、専門研修（専攻医）3 年目の研修施設を調整し決定します。病歴提出を終える専門研修（専攻医）3 年目の 1 年間、連携施設、特別連携施設で研修をします。（例 3）

なお、研修達成度によっては subspecialty 研修も可能です。（個々人により異なります）

Subspecialty 重点コース

例) 循環器内科をSubspecialtyにした場合の重点コース												
専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	循環器内科にて初期トレーニング				他内科1		他内科2		他内科3		他内科4	
		5月から1回/月のプライマリケア当直研修を 6か月間行います(プログラムの要件)										
		1年目にJMECCを受講(プログラムの要件)										
2年目	他内科5		他内科6		他内科7		他内科8		他内科9		予備(充足してい ない領域をロー テーション)	
										内科専門医取得のための 病歴提出準備		
3年目	連携施設											
	初診+再診外来 週に1回担当(プログラムの要件)											
その他のプログラム要件			安全管理セミナー、感染セミナーの週に2回の受講、CPC受講									

12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17、19~22】

- 福岡赤十字病院臨床研修センター（仮称:2016 年度設置予定）の役割
 - 福岡赤十字病院内科専門研修管理委員会の事務局を行います。
 - 福岡赤十字病院内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会の専攻医登録評価システム（J-OSLER）の J-OSLER を基に カテゴリー別の充足状況を確認します。
 - 3 か月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による J-OSLER への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
 - 6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
 - 6 か月ごとプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
 - 年に複数回（8 月と 2 月、必要に応じて臨時に）、専攻医自身の自己評価を行います。その結果は日本内科学会の専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され、1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って、改善を促します。
 - 臨床研修センター（仮称）は、メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8 月と 2 月、必要に応じて臨時に）行います。担当指導医、subspecialty 上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士、事務員などから、接点の多い職員 5 人を指名し、評価します。評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で、臨床研修センター（仮称）もしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指

導医が取りまとめ、日本内科学会の専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録します。
(他職種はシステムにアクセスしない) その結果は日本内科学会の専攻医登録評価システム(J-OSLER)を通じて 集計され、担当指導医から形式的にフィードバックを行います。

- ・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット(施設実地調査)に対応します。

(2) 専攻医と担当指導医の役割

- ・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医(メンター)が福岡赤十字病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
- ・専攻医は web にて日本内科学会の専攻医登録評価システム(J-OSLER)にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認、をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- ・専攻医は、1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群、40 症例以上の経験と登録を行うようにします。2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群、80 症例以上の経験と登録を行うようにします。3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群、120 症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認します。
- ・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センター(仮称)からの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
- ・担当指導医は subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- ・専攻医は、専門研修(専攻医)2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し、日本内科学会の専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録します。担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理(アクセプト)されるように病歴要約について確認し、形式的な指導を行う必要があります。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形式的評価に基づき、専門研修(専攻医)3 年次修了までにすべての病歴要約が受理(アクセプト)されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形式的に深化させます。

(3) 評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに福岡赤十字病院内科専門研修管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

(4) 修了判定基準【整備基準 53】

- 1) 担当指導医は、日本内科学会の専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いて研修内容を評価し、以下 i) ~vi) の修了を確認します。
 - i) 主担当医として「研修手帳(疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上(外来症例は 20 症例まで含むことができる)を経験することを目標とします。その研修内容を日本内科学会の専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例(2023 年度以前

登録専攻医は計 160 症例) 症例以上の症例(外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる)を経験し、登録を済ませることが必要です。(各疾患領域は 50%以上の疾患群での経験が必要である)(P. 99「内科専攻研修において求められる「疾患群」「症例数」「病歴要約提出数」について」参照)

- ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理(アクセプト)
 - iii) 所定の 2 編の学会発表または論文発表
 - iv) JMECC 受講
 - v) プログラムで定める講習会受講
 - vi) 日本内科学会の専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性
- 2) 福岡赤十字病院内科専門医研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約 1 か月前に福岡赤十字病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備
「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画(FD)の実施記録」は、日本内科学会の専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用います。

なお、「福岡赤十字病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】(P. 57)と「福岡赤十字病院内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準 45】(P. 68)と別に示します。

13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34、35、37~39】 (P. 74「福岡赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照)

- 1) 福岡赤十字病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準
- i) 内科専門研修プログラム管理委員会(専門医研修プログラム準備委員会から 2016 年度中に移行予定)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者(副院長)、プログラム管理者(診療部長)(ともに指導医)、事務局代表者、内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者(診療科科長)および連携施設担当委員で構成されます。また、オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させます。(P. 55 福岡赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会参照) 福岡赤十字病院内科専門研修管理委員会の事務局を、福岡赤十字病院臨床研修センター(仮称:2016 年度設置予定)に置きます。
 - ii) 福岡赤十字病院内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置する。委員長 1 名(指導医)は、基幹施設との連携のもと、活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、毎年 6 月と 12 月に開催する福岡赤十字病院内科専門研修管理委員会の委員として出席します。
基幹施設、連携施設ともに、毎年 4 月 30 日までに、福岡赤十字病院内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います。
- ① 前年度の診療実績

- a) 病院病床数、b) 内科病床数、c) 内科診療科数、d) 1 か月あたり内科外来患者数、e) 1 か月あたり内科入院患者数、f) 剖検数
- ② 専門研修指導医数および専攻医数
 - a) 前年度の専攻医の指導実績、b) 今年度の指導医数/総合内科専門医数、c) 今年度の専攻医数、d) 次年度の専攻医受け入れ可能人数
- ③ 前年度の学術活動
 - a) 学会発表、b) 論文発表
- ④ 施設状況
 - a) 施設区分、b) 指導可能領域、c) 内科カンファレンス、d) 他科との合同カンファレンス、e) 抄読会、f) 机、g) 図書館、h) 文献検索システム、i) 医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会、j) JMECC の開催。
- ⑤ Subspecialty 領域の専門医数

日本消化器病学会消化器専門医数、日本循環器学会循環器専門医数、日本内分泌学会専門医数、日本糖尿病学会専門医数、日本腎臓病学会専門医数、日本呼吸器学会呼吸器専門医数、日本血液学会血液専門医数、日本神経学会神経内科専門医数、日本アレルギー学会専門医（内科）数、日本リウマチ学会専門医数、日本感染症学会専門医数、日本救急医学会救急科専門医数

14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18、43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）を活用します。厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。

指導者研修(FD)の実施記録として、日本内科学会の専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用います。

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。

専門研修（専攻医）は基幹施設である福岡赤十字病院及び連携施設もしくは特別連携施設の就業環境に基づき、就業します。（P. 21「福岡赤十字病院内科専門研修施設群」参照）

基幹施設である福岡赤十字病院の整備状況：

- ・ 初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院です。
- ・ 施設内に専門の担当者が常駐する図書室があり、インターネットの環境も情報システム課の管理の元で整備されています。
- ・ 福岡赤十字病院の常勤医師として労務環境が保障されています。
- ・ メンタルストレスに関しては福岡赤十字病院職員メンタルヘルスケア相談実施要綱が制定され、当院産業医また外部専門医（臨床心理士）によるカウンセリングが定期的にまたは希望に応じてかつ秘密を保持しながら、適宜実施されています。
- ・ 日本赤十字社ハラスメント防止規程に則り、また院内にハラスメント防止委員会が設置されています。各部署にハラスメント相談員を置くとともにハラスメント相談箱やメールによる相談も受け付け、プライバシーを厳守し、不利益な取り扱いを受けることのないよう十分配慮して対応しています。
- ・ 専攻医を含めた女性医師が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。

・敷地内に保育所はありませんが、病院の周辺（近隣）に多数の保育施設があり、当院職員の利用は容易であり、実際に多くの職員が利用しています

専門研修施設群の各研修施設の状況については、P. 21「福岡赤十字病院内科専門施設群」を参照

また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は福岡赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図ります。

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48-51】

1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本内科学会の専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき、福岡赤十字病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の内科専門研修委員会、福岡赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会の専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については、福岡赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。

- ① 即時改善を要する事項
- ② 年度内に改善を要する事項
- ③ 数年をかけて改善を要する事項
- ④ 内科領域全体で改善を要する事項
- ⑤ 特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

・担当指導医、施設の内科研修委員会、福岡赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会の専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし、福岡赤十字病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して福岡赤十字病院内科専門研修プログラムを評価します。

・担当指導医、各施設の内科研修委員会、福岡赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会の専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし、自律的な改善に役立てます。状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立てます。

3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

福岡赤十字病院臨床研修センター（仮称）と福岡赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会は、福岡赤十字病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に、必要に応じて福岡赤十字病院内科専門研修プログラムの改良を行います。

福岡赤十字病院内科専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は、毎年 7 月から website での公表や説明会などを行い、内科専攻医を募集します。翌年度のプログラムへの応募者は、11 月 30 日までに福岡赤十字病院臨床研修センター（仮称）の website の福岡赤十字病院医師募集要項（福岡赤十字病院内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します。書類選考および面接を行い、翌年 1 月の福岡赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に文書で通知します。

（問い合わせ先）福岡赤十字病院臨床研修センター（仮称） E-mail: h-maeda@fukuoka-med.jrc.or.jp HP: <http://www.fukuoka-med.jrc.or.jp/>

電話：092-521-1211

福岡赤十字病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は、遅滞なく日本内科学会の専攻医登録評価システム（J-OSLER）にて登録を行います。

18. 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には、適切に日本内科学会の専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて福岡赤十字病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します。これに基づき、福岡赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認める。他の内科専門研修プログラムから福岡赤十字病院内科専門研修プログラムへの移動の場も同様です。

他の領域から福岡赤十字病院内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに福岡赤十字病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、日本内科学会の専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしていれば、休職期間が 6 か月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤務期間などがある場合、按分計算（1 日 8 時間、週 5 日を基本単位とする）を行なうことによって 研修実績に加算します。

留学期間は、原則として研修期間として認めません。

福岡赤十字病院内科専門研修施設群研修施設

表 1. 各研修施設の概要（令和 4 年 4 月現在、剖検数：平成 26 年度）

	病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
基幹施設	福岡赤十字病院	511	200	12	13	8	15
連携施設	九州大学病院	1252	372	11	151	127	16
連携施設	九州大学病院別府病 院	104	50	1	6	2	0
連携施設	九州がんセンター	411	N/A	6	13	7	7
連携施設	小倉医療センター	400	130	8	11	7	2
連携施設	製鉄記念八幡病院	453	203	8	14	6	11
連携施設	済生会二日市病院	260	0	10	2	2	3
連携施設	原三信病院	359	177	3	16	10	1
連携施設	福岡市民病院	204	72	7	7	3	1
連携施設	山口赤十字病院	475	98	4	5	3	1
連携施設	福岡山王病院	199	60	12	26	8	1
連携施設	佐賀県医療センター 好生館	450	146	7	10	10	21
連携施設	福岡中央病院	192	111	3	7	4	2
連携施設	高木病院	506	281	12	15	5	9
連携施設	下関市立市民病院	436	132	7	7	3	8
連携施設	和白病院	369	100	9	5	10	4
連携施設	西福岡病院	248	190	9	10	3	0
連携施設	福岡病院	360	142	7	13	5	2
連携施設	白十字病院	466	158	9	11	8	2
特別連携施設	今津赤十字病院	180	120	3	0	0	0
特別連携施設	嘉麻赤十字病院	144	N/A	2	1	0	0
連携施設	門司掖済会病院	199	130	13	5	2	0
特別連携施設	福岡ゆたか中央病院	195	117	6	2	1	N/A
連携施設	浜の町病院	468	245	13	11	25	1
連携施設	済生会福岡総合病院	380	192	10	11	5	7
連携施設	JCHO 九州病院	575	207	9	22	17	14
連携施設	北九州市立医療センタ ー	620	188	8	22	9	13
連携施設	聖マリア病院	1097	192	8	29	N/A	11
連携施設	小倉記念病院	656	320	7	14	3	13
連携施設	九州医療センター	702	305	13	36	37	17
連携施設	九州労災病院	450	157	5	8	10	9
連携施設	松山赤十字病院	681	249	8	28	16	18
連携施設	飯塚病院	1116	489	13	33	28	17
連携施設	前田病院	129	129	3	3	5	0
特別連携施設	永富脳神経外科病院	153	122	1	0	0	0
連携施設	福岡東医療センター	549	345	12	22	22	2
連携施設	九州中央病院	330	151	10	14	5	10

連携施設	平和台病院	80	80	4	2	2	0
研修施設合計		15976 428 5	6171 3729	288 58	544 3	312 78	252

表 2. 各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
福岡赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
九州大学病院	△	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	○	○
九州大学病院別府病院	○	○	○	△	△	○	○	○	△	○	○	○	△
九州がんセンター	○	○	×	○	○	△	△	○	△	×	△	△	△
小倉医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
製鉄記念八幡病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
済生会二日市病院	○	○	○	×	×	○	○	×	○	×	×	×	○
原三信病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
福岡市民病院	○	○	○	○	○	○	△	△	○	△	×	○	○
山口赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
福岡山王病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
佐賀県医療センター 好生館	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
福岡中央病院	○	○	○	○	○	△	○	○	△	○	○	○	○
高木病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
下関市立市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
和白病院	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
西福岡病院	○	○	△	×	△	×	○	×	×	×	×	×	×
福岡病院	○	×	△	×	×	×	○	×	×	○	○	○	×
白十字病院	×	○	○	○	○	○	×	×	○	×	×	×	×
今津赤十字病院	△	×	○	×	×	×	○	×	△	×	×	×	×
嘉麻赤十字病院	○	○	△	○	○	×	△	△	△	○	○	○	△
門司掖済会病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
福岡ゆたか中央病院	○	○	○	×	○	×	○	×	×	×	○	×	×
浜の町病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
済生会福岡総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
JCHO 九州病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
北九州市立医療センター	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○
聖マリア病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小倉記念病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
九州医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
九州労災病院	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○
松山赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

書式変更：フォント：10 pt, フォントの色：テキスト

書式変更：フォント：10 pt, フォントの色：テキスト

飯塚病院	○	○	○	△	△	○	○	○	△	△	○	△	○
前田病院	○	×	×	○	○	○	×	×	×	×	×	○	○
永富脳神経外科病院	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	○
飯塚病院	○	○	○	△	△	○	○	○	△	△	○	△	○
福岡東医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
九州中央病院	○	○	○	○	○	○	○	×	○	△	△	○	○
平和台病院	○	△	×	○	○	△	△	×	×	×	×	△	×

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の可能性を 3 段階（○、△、×）に評価しました。（○：研修できる、△：特に研修できる、×：ほとんど研修できない）

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。福岡赤十字病院内科専門研修施設群 研修施設は福岡県及び近隣の医療機関から構成されています。

福岡赤十字病院は、福岡・糸島医療圏南部の中心的な急性期病院です。そこでの研修は、地域における中核的な 医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設・特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み 合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である九州大学病院、九州大学別府病院、九州がんセンター、小倉医療センター、製鉄記念八幡病院、地域基幹病院である済生会二日市病院、原三信病院、福岡市民病院、山口赤十字病院、福岡山王病院、佐賀県医療センター好生館、福岡中央病院、高木病院、下関市立市民病院、和白病院および地域医療密着型病院である西福岡病院、福岡病院、今津赤十字病院、嘉麻赤十字病院、白十字病院、[門司掖済会病院](#)、[福岡ゆたか中央病院](#)、松山赤十字病院、株式会社飯塚病院、[前田病院](#)、[永富脳神経外科病院](#)で構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を 研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。

地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

- ・ 専攻医 1 年目及び 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に、研修施設を調整し決定します。
- ・ 病歴提出を終える専攻医 3 年目の 1 年間は基幹施設もしくは連携施設・特別連携施設で研修します。なお、研修達成度によっては Subspecialty 研修も可能です。（個々人により異なります）

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

福岡・糸島医療圏と近隣医療圏にある施設から構成しています。最も距離が離れている九州大学病院別府病院は当院から電車で 2 時間 30 分の距離にありますが、指導医と専攻医は

電話やメールを通じて密に連絡をとることで、連携に支障が出ないように努めます。

1) 専門研修基幹施設

福岡赤十字病院

認定基準 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室（専任の担当者有り）とインターネット環境（情報システム課が管理）があります。 ・日本赤十字社 福岡赤十字病院の常勤医師として勤務環境は適切に管理されています。 ・メンタルストレスに関しては福岡赤十字病院職員メンタルヘルスケア相談実施要綱が制定され、適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。さらに当院産業医また外部専門医（臨床心理士）によるカウンセリングが定期的にまたは希望に応じてかつ秘密を保持しながら、適宜実施されています。 ・日本赤十字社ハラスメント防止規程に則り、また院内にハラスメント防止委員会が設置されています。各部署にハラスメント相談員を置くとともにハラスメント相談箱やメールによる相談も受け付け、プライバシーを厳守し、不利益な取り扱いを受けることのないよう十分配慮して対応しています。 ・専攻医を含めた女性医師が安心して勤務できるよう休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育園を設置しており、職員であれば利用することができます。週に1日の夜間保育も実施しています。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 27 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療部長）；専門医研修プログラム準備委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群との合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を適宜開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（サザンハートカンファレンス、サザンキドニーカンファレンス、サザンブレインカンファレンス、サザン General Medicine (SGM) 研究会、南区糖尿病を考える会、筑紫糖尿病研究会、福岡南・筑紫地区消化器カンファレンス。胃守会、南区合同症例検討会、病診連携セミナー、膠原病疾患を考える会、Team Myeloma Conference 等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・特別連携施設である今津ならびに嘉麻赤十字病院での研修は、福岡赤十字病院のプログラム管理委員会と研修委員会とが管理と指導を行います。福岡赤十字病院の担当指導医が、今津ならびに嘉麻赤十字病院での上級医とともに、専攻医の研修指導にあたり、指導の質を保ちます。さらに特別連携施設での研修中も福岡赤十字病院の専用携帯電話を携帯し、同院の指導医を含めた全医師に直接電話あるいはメールで相談出来る体制があります。また、最も遠方の病院でも距離的には車を利用して 120 分程度の移動距離であり（JR 等の公共交通機関を利用しても移動可能）、専攻医が当院に定期的（月に数回）戻り、指導医と直接面談し、

	指導を受けることも予定しています。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で 定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。（上記） ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。（上記） ・専門研修に必要な剖検（2020 年度実績 12 体、2021 年度 3 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、インターネット環境、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、適宜（定期的に）開催しています。 ・治験管理センターを設置し、定期的に治験審査委員会（受託研究審査会）を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	石丸 敏之 【内科専攻医へのメッセージ】 福岡赤十字病院は福岡・糸島医療圏南部の中心的な急性期病院であります。福岡・糸島医療圏の南部を中心に、山口・佐賀・大分にある連携施設・特別連携施設とも協力して内科専門研修を行い、超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある地域の実情に合わせた実践的な医療も行える内科専門医の育成を目指します。 主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 具体的には福岡赤十字病院は、36 診療科（外科の細分化専門科を含む）、511 床を有し、ヘリポートも併設した福岡県福岡市南部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、災害時における国内外への医療チームの派遣などの災害救護、国際医療救援活動にも携わり、社会貢献にも力を入れています。さらに、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養も見につけられます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 9 名、日本内科学会総合内科専門医 27 名、日本消化器病学会消化器指導医 4 名、日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、日本腎臓学会腎臓専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器指導医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液指導医 1 名、日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本リウマチ学会リウマチ指導医 2 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名、日本感染症学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	病院全体：外来患者 19,127 名（1 ヶ月平均） 入院患者 1,271 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定内科認定医制度教育病院 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会専門医制度研修施設 日本透析医学会認定施設

	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器病内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本脳神経血管内治療学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 など
--	---

2) 専門研修連携施設

1. 九州大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・九州大学シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が九州大学に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が（2024 年度）151 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績 医療倫理 1 回（4 月に就職時に参加が必須。今後は年度内に複数回の定期開催を予定）、医療安全 40 回、感染対策 40 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 17 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを（2015 年度実績 6 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、リウマチ、膠原病、感染症および救急の全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2021 年度実績 35 演題）をしています。
指導責任者	桑原 綾子 【内科専攻医へのメッセージ】 九州大学病院は福岡県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムでは初期臨床研修修了後に協力病院として大学病院の内科系診療科も加わることで、リサーチマインドの育成などを含む質の高い内科医の育成を目指します。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全・倫理を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 151 名, 日本内科学会総合内科専門医 127 名 日本消化器病学会消化器専門医 38 名, 日本循環器学会循環器専門医 27 名, 日本内分泌学会専門医 14 名, 日本糖尿病学会専門医 15 名, 日本腎臓病学会専門医 12 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 14 名, 日本血液学会血液専門医 10 名, 日本神経学会神経内科専門医 19 名, 日本アレルギー学会専門医 (内科) 7 名, 日本リウマチ学会専門医 4 名, 日本感染症学会専門医 10 名, 日本救急医学会救急科専門医 5 名, 老年医学会 5 名, 肝臓学会 14 名, 消化器内視鏡学会 25 名, 臨床腫瘍学会 8 名 他
外来・入院患者数	内科系外来患者 16,570 名 (1 ヶ月平均) 内科系入院患者 10,885 名 (1 か月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本心療内科学会専門医研修施設 日本心身医学会研修診療施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本東洋医学会教育病院 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本胆膵学会認定胆膵症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

2. 九州大学病院別府病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する制度があります。 ・監査室が九州大学に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、当直室が整備されています。 ・敷地内に寮があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 6 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に医療安全 2 回、感染対策 2 回の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型の症例検討会（2022 年度実績地元医師会合同勉強会 4 回、同門会としてのセミナー 2 回）を定期的に開催しています。また、院内多職種参加型の勉強会（2022 年度実績 6 回）を行い、専攻医にも積極的に参加頂いています。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、リウマチ、循環器、血液の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	- 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2022 年度実績 3 演題）をしています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	山崎 聡 【内科専攻医へのメッセージ】 当科の特徴は、免疫・アレルギーから血液・腫瘍、循環器までさまざまな分野の専門医が、同じ内科で診療を行っていることです。勉強会、カンファレンス、回診も一緒に行っており、専門知識の習得はもちろんですが、患者さん全体を広い視野で診療するという姿勢を研修することができますと思います。同時に当院では開院以来 90 年にわたって温泉・リハビリ療法を積極的に行っており、とくに高齢者の内科疾患の治療について薬物療法以外の視点から研修することは貴重な経験になると思います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 6 名、日本内科学会総合内科専門医 4 名 日本リウマチ学会専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、 日本血液学会血液専門医 1 名、日本臨床腫瘍内科専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 1,258 名（1 ヶ月平均） 入院患者 1,370 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	1) 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、関節リウマチをはじめとする自己免疫疾患の治療を確実に経験でき、血液腫瘍および甲状腺癌をはじめとする各種固形がんへの抗がん剤治療と付随するオンコロジーエマージェンシー、緩和ケア治療、終末期医療等についても経験できます。 2) 地域の特性として、高齢者に発生した内科疾患について、心不全や虚血性心疾患患者の診断・治療など、リウマチ・がんとの関連の有無を問わず幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	1) 関節リウマチ患者の診断、治療など、幅広い診療を経験できます。 2) 血液腫瘍や固形腫瘍の診断、抗がん剤治療（標準治療）、緩和ケア治療、放射線治療など、幅広いがん診療を経験できます。 3) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能のうち、骨髄検査、超音波検査などを、実際の症例に基づきながら経験することができます。 4) また、循環器領域においては、最新(4D)超音波心エコー機器や心臓カテーテル検査による心疾患の診断を経験できます。JMECC のインストラクター資格を有する医師も常勤しており、指導を受けることも可能です。

経験できる地域医療・診療連携	関節リウマチ、血液疾患などの高齢者への診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本リウマチ学会認定研修施設 日本循環器学会認定研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 など

3. 九州がんセンター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立病院機構非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（管理科職員担当）があります。 ・監査・コンプライアンス室が国立病院機構本部に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 9 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、肝臓、代謝、呼吸器および血液の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	杉本理恵 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は九州で唯一のがん専門病院です。がんの早期発見やステージングの為の様々なデバイスをを用いた適格な診断方法、標準的化学療法や放射線治療などを組み合わせた集学的治療、希少がんの診断と治療、薬物や内視鏡治療などを含めた多面的な緩和治療、さらに在宅支援や緩和ケア病院との地域連携、様々な治験や臨床研究、がんの栄養療法などがんに関する様々な事を学び、技術を習得できます。またがん診療のみならず付随しておこる感染症や代謝性疾患などの内科疾患についても幅広く経験することができます。当院で研修することで内科専門医のみならず subspeciality の資格を得るためにも必要な症例を担当することができます。ぜひ我々と一緒にがんの high volume center で研修してみませんか。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 9 名、日本内科学会総合内科専門医 14 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、指導医 3 名、

	日本循環器学会循環器専門医 1 名、 日本肝臓学会専門医 3 名、指導医 2 名 日本血液学会血液専門医 4 名、指導医 3 名 臨床腫瘍学会薬物療法専門医 5 名、指導医 4 名、日本内視鏡学会専門医 1 名 がん治療認定医 5 名、暫定指導医 2 名 日本呼吸器学会指導医 1 名、日本膀胱学会指導医 3 名、老年医学会指導医 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 7,492 名（1 ヶ月平均） 入院患者 651 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	1) 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、全ての固形癌、 血液腫瘍の内科治療を経験でき、付随するオンコロジーエマージェンシー、緩和 ケア治療、終末期医療等についても経験できます。 2) 研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患につ いて、がんとの関連の有無を問わず幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技 能	1) 日本屈指のがん専門病院において、がんの診断、抗がん剤治療（標準治療、臨 床試験・治療）、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療、インターベンシ ョナルラジオロジーなど、幅広いがん診療を経験できます。 2) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例 に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医 療・診療連携	在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連 携を経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本肝臓学会認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器学会関連施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本乳癌学会認定施設 日本放射線腫瘍学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本病理学会研修認定施設 B 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 など

4. 独立行政法人国立病院機構小倉医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度の基幹型および協力型研修指定病院です。 ・施設内に研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立病院機構非常勤医師として適切な労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署が整備されています。 ・ハラスメントに適切に対処する部署が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室 が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログ	・指導医が 11 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。

ラムの環境	・医療安全・感染対策等の講習会を定期的に開催（2022 年度実績 医療安全 3 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・医療倫理の講習会については昨年度の開催実績はありませんが、基幹施設で行なう講習会の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、すべての分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2022 年度実績 1 演題）をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があります。
指導責任者	佐藤丈顕
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 11 名 日本内科学会総合内科専門医 7 名 日本肝臓学会肝臓専門医 3 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本消化器内視鏡学会専門医 2 名、 日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、 日本血液学会血液専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 1,925 名（1 ヶ月平均） 入院患者 2,322 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	1) 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、すべての分野を幅広く経験できます。 2) 特に総合内科（一般、高齢者、腫瘍）、消化器、内分泌、代謝、呼吸器、血液疾患については多くの症例を経験できます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	当院は地域医療支援病院であり、病院敷地内に医師会の介護サービス総合センターが立地しています。地域医療連携室等地域医療と連携できる体制が整っています。
学会認定施設 (内科系)	・日本内科学会新専門医制度連携施設 ・日本消化器病学会認定施設 ・日本肝臓学会認定施設 ・日本糖尿病学会認定教育施設 II ・日本血液学会血液研修認定施設 ・日本呼吸器学会認定施設 ・日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・日本肥満学会認定肥満症専門病院 など

5. 社会医療法人 製鉄記念八幡病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として採用し労務環境を保障しています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課）があり、1 回/年のストレスチ
--------------------------------	---

	エックを実施しています。 ・過勤務は毎月人事課より幹部会議に報告され、長時間勤務者は病院長による面談により状況把握並びに改善策を検討しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室、仮眠室、休憩室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、365日24時間利用可能です。
認定基準 【整備基準23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が9名在籍しています。(下記) ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2015年度実績 医療倫理1回、医療安全2回、感染対策2回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス(2017年度予定)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催(2015年度実績8回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器、腎臓、神経および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検(2015年度実績10体)を行っています。
認定基準 【整備基準23】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表(2014年度実績3演題)をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2014年度実績3回)しています。 ・臨床研究支援室を設置し、定期的に治験審査会を開催(2014年度実績6回)しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	古賀 徳之 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は内科が主体の病院です。総合内科、消化管、肝臓、循環器、糖尿病、呼吸器、腎臓、神経、救急において、高度急性期医療から回復期、在宅、終末期医療までチーム医療や地域医療との診療連携も含めた十分な研修ができます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 13名、日本内科学会総合内科専門医 6名 日本消化器病学会消化器専門医4名、日本循環器学会循環器専門医4名、 日本糖尿病学会専門医3名、日本呼吸器学会呼吸器専門医2名、 日本腎臓学会専門医4名、日本肝臓学会専門医2名、 日本救急医学会専門医1名、ほか
外来・入院患者数 経験できる疾患群	外来患者498名(1日平均) 入院患者346名(1日平均) 研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群のうち、血液、膠原病、内分泌を除く疾患群の内科診療を経験できます。
経験できる技術・技能	1) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 2) 特に冠動脈、脳血管、シャントをはじめとする心血管インターベンション、がんの診断、抗がん剤治療、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療などを経験できます。
経験できる地域医療・診療連携	近隣のクリニックとの前方連携、療養型病院との後方連携による地域医療・診療連携を経験できます。また高齢者総合評価に基づく高齢者在宅復帰に向けチーム医療を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本高血圧学会専門医認定施設

	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本心身医学会認定医制度研修診療施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本乳癌学会関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本老年医学会認定研修施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本静脈経腸栄養学会N S T実地修練認定教育施設 日本栄養療法推進協議会N S T稼動施設 日本病理学会研修認定施設B 日本臨床細胞学会施設認定、教育研修施設、コントロールサーベイなど
--	--

6. 済生会二日市病院

認定基準 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります ・常勤医師として勤務環境が保障されています ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります ・監査・コンプライアンス室が済生会本部に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室、当直室が整備されています ・
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が8名在籍しています（下記） ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021年度実績、医療安全2回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に企画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・C P Cを定期的に開催（2021年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2021年度実績 地元医師会合同勉強会、地域合同メディカル・カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・専門研修に必要な剖検（2021年度実績5例）を行っています。 日本内科学会総会ないし同地方会、および各サブスペシャリティ学会の学術集会ないし同地方会に、各専攻医がそれぞれ年間で最低1演題以上の学会発表をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2021年度実績4回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に合同治験研究審査会を開催（2021年度実績12回）しています。

認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・専門研修プログラムに示す内科領域 13 分野のうち、感染症、消化器、代謝、腎臓、呼吸器、循環器、神経、救急の各分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診察しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	門上 俊明 【内科専攻医へのメッセージ】 "済生会二日市病院は福岡県筑紫地区唯一の公的病院であり、二次医療圏の基幹病院として救急医療の中核をなしています（年間救急搬送例数はおよそ 3,500 例）。また、地域医療支援病院、災害拠点病院としての役割を担っています。当院が属する筑紫二次医療圏は、筑紫野市・太宰府市・春日市・大野城市・那珂川市の 5 市を管轄区域とし面積約 233k m ² で、人口は約 42 万人の医療圏であります。 内科専門医を目指す専攻医諸君にとって、当院はリアルワールドにおける豊富な症例数を経験できる恵まれた環境を提供できるはずで。意欲的な専攻医諸君と一緒に仕事ができることを期待しています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 18 名（うち 日本内科学会総合内科専門医 12 名） （新）内科専門医 0 名 日本消化器病学会専門医 5 名 日本消化器内視鏡学会専門医 4 名 日本循環器学会専門医 6 名 日本心血管インターベンション治療学会専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 1 名、 日本呼吸器学会専門医 3 名 日本神経学会専門医 1 名 日本脳卒中学会専門医 1 名 日本感染症学会専門医 1 名 日本救急医学会専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 6,498 名（1 ヶ月） 入院患者 482 名（1 ヶ月）
経験できる疾患群	研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	関連施設において在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療など地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器病内視鏡学会認定指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本膵臓学会指導施設 日本胆道学会指導施設 日本がん治療認定医療機関認定研修施設 日本呼吸器学会連携施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心臓リハビリテーション学会研修施設

	日本脳卒中学会一次脳卒中センター 研究教育病院 日本神経学会教育関連施設 J S P A N日本静脈経腸栄養学会N S T稼動施設認定 日本病理学会研修登録施設
--	---

7. 医療法人 原三信病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医、専門医等が下記の通り在籍しています。 ・教育研修委員会があり、施設内の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績 医療倫理 3 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を開催（2019 年度実績 1 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（地元医師会勉強会窓）専攻医に受講を促し，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，代謝，呼吸器および血液の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2019 年度実績 1 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	- 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 1 演題）をしています。 ・臨床研究倫理審査委員会を設置し，定期的に開催（2014 年度実績 12 回）しています。 ・治験事務局を設置し，定期的に治験審査委員会を開催（2014 年度実績 12 回）しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も行われています。
指導責任者	古藤和浩 【内科専攻医へのメッセージ】 福岡県内でも有数のがん治療病院として，がんの診断，抗がん剤治療（標準治療，臨床試験・治験），緩和ケア治療，放射線治療，内視鏡検査・治療，訪問看護ステーションを設置し，終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携についても経験できます。また，多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について，がんとの関連の有無を問わず幅広く研修を行うことができます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 2 名，日本内科学会総合内科専門医 17 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名，日本循環器学会循環器専門医 4 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名，日本肝臓学会専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 4 名，日本腎臓学会専門医 4 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 514 名（1 日平均） 入院患者 289 名（1 日平均）
経験できる疾患群	1) 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，全ての固形癌，血液腫瘍の内科治療を経験でき，付随するオンコロジーエマージェンシー，緩和ケア治療，終末期医療等についても経験できます。 2) 研修手帳の一部の疾患を除き，多数の通院・入院患者に発生した内科疾患につ

	いて、がんとの関連の有無を問わず幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	1) 福岡県内でも有数のがん治療病院として、がんの診断、抗がん剤治療（標準治療、臨床試験・治験）、緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療等幅広いがん診療を経験できます。又、心血管インターベンション治療を含め幅広く内科救急医療を経験でき、技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本腎臓学会研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 非血縁者間骨髓採取・移植認定施設 非血縁者間末梢血管幹細胞採取認定施設 非血縁者間造血幹細胞移植認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本脈管学会認定研修関連施設 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 日本高血圧学会認定施設 日本透析医学会教育関連施設 福岡県肝疾患専門医療機関 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本外科学会関連研修施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本乳癌学会認定施設 日本内分泌外科学会専門医制度関連施設 乳房エキスパンダー実施施設 日本整形外科学会専門医研修施設 日本泌尿器科学会専門医教育施設 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関 日本医学放射線学会画像診断管理認証施設 日本放射線腫瘍学会認定施設 日本ハイパーサーミア学会認定施設 日本麻酔科学会麻酔科認定病院 日本静脈経腸栄養学会認定 NST 稼働施設 日本口腔外科学会認定准研修施設 臨床研修病院 健康保険組合連合会指定日帰りドック実施施設 人間ドック健診専門医研修施設 など

8. 地方独立行政法人福岡市立病院機構 福岡市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・地方独立行政法人福岡市立病院機構有期職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課担当）があります。 ・セクシュアル・ハラスメントの対策等に関する委員会が機構本部に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・同一機構である福岡市立こども病院敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 8 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・本院での CPC、または九州大学形態機能病理学教室で実施される病理解剖の参加を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、神経、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	小柳 年正 【内科専攻医へのメッセージ】 福岡市民病院は、高度救急・高度専門医療を提供する地域の中核病院であり、九州大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 4 名、日本内科学会指導医 3 名、日本循環器学会専門医 2 名、日本消化器病学会指導医 2 名、日本消化器病学会専門医 2 名、日本肝臓学会指導医 1 名、日本肝臓学会専門医 1 名、日本消化管学会胃腸科指導医 1 名、日本消化管学会胃腸科専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 1 名、日本心血管インターベンション治療学会専門医 1 名、日本神経学会指導医 1 名、日本神経学会専門医 1 名、日本腎臓学会専門医 1 名、日本糖尿病学会指導医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本内分泌学会指導医 1 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本脳卒中学会指導医 1 名、日本脳卒中学会専門医 1 名、日本病態栄養学会研修指導医 1 名、日本病態栄養学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 4,293 名（1 ヶ月平均延数） 入院患者 4,406 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 8 領域の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設（新制度） 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設（旧制度） 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本神経学会専門医制度教育関連施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本脳神経血管内治療学会専門医制度研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本病態栄養学会認定栄養管理・NST実施施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本腎臓学会研修施設
-----------------	--

9. 総合病院 山口赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型臨床研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師としての待遇が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理士常勤）があります。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科指導医が7名在籍しており、その他指導医もいます。（下記） ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022年度実績 医療倫理1回、医療安全2回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2022年度実績1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、膠原病、感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2022年度実績2体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。 ・倫理委員会を設置し、不定期に開催しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があります。
指導責任者	末兼浩史 【内科専攻医へのメッセージ】

	内科スタッフはチームワーク良く初期診療から専門領域まで皆協力分担して診療しており、少数精鋭で密度の濃い研修が可能です。分野間の垣根が低く、 common disease から希少な難病・特定疾患まで豊富な症例の治療が専門医の指導下で経験可能で、的確な判断が要求される救急の場では一人で悩むことなくマンツーマンで上級医に相談し迅速な対応が可能です。総合病院として、すべての専門医師・医療スタッフの力を結集して、一人ひとりの患者さんの命に向き合い、他職種の医療スタッフにも恵まれ、職種を超えた NST, ICT などのチーム医療も盛んです。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 7 名, 日本内科学会総合内科専門医 13 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名, 日本循環器学会循環器専門医 2 名, 日本糖尿病学会専門医 1 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名, 日本神経学会指導医 2 名, 日本神経学会専門医 2 名, ほか
外来・入院患者数	外来患者 693.7 名 (1 日平均) 入院患者 291.8 名 (1 日平均)
経験できる疾患群	1) 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群のうち、領域においては、すべて幅広く経験することができます。 2) 疾患群については、一部を除き多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	1) 内科の受け持ちは臓器別ではなく内科全般の疾患を担当しますが、各診療科の専門医がいるため、適宜相談しながら主治医として診療可能です。そのため、技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 2) 高齢化のすすむ圏域をカバーしていることから、患者の約 6 割は高齢者であるので、患者の急変に対応する機会は往々に発生します。そうした事例については終末期ケアも含めた経験を積むことができます。
経験できる地域医療・診療連携	訪問看護ステーションを有し、小児から末期がん患者の訪問緩和ケアまで、広範な地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育施設 日本認知症学会専門医制度教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 など

10. 福岡山王病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・監査・コンプライアンスはグループ本部（東京事務所）で整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準	・指導医が 13 名在籍しています。

【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（救急隊との勉強会など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、代謝、呼吸器、神経および血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。総合内科、内科救急、感染症分野でも患者を受け入れており、研修可能です。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・内科各分野の学会で学会発表を行うほか、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われており、専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があります。
指導責任者	徳松 誠 【内科専攻医へのメッセージ】 福岡山王病院は、「生命（いのち）の尊厳、生命（いのち）の平等」の理念のもとに、2009 年 5 月、国際医療福祉大学・医療法人社団高邦会グループの一員として福岡市百道浜に開院した、21 世紀の先端医療を担う総合病院です。最高の医師・医療スタッフによって、最新の医療機器を駆使した、質の高い医療の提供に努めています。専門性の高い不整脈の治療カテーテルアブレーションや心臓カテーテル治療、消化器内視鏡検査やてんかんの診断・治療のほか、予防医学（人間ドック）やリハビリテーションにも注力していますので、予防からリハビリまで、総合的に最良の研修が行える環境にあります。「断らない医療」を基本方針とし救急の対応にも注力しています。幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 13 名、 日本内科学会総合内科専門医 12 名、 日本消化器病学会消化器指導医 2 名、同専門医 7 名、 日本循環器学会循環器専門医 7 名、 日本肝臓学会専門医 2 名 日本内分泌学会指導医 2 名・同専門医 2 名、 日本糖尿病学会指導医 1 名・同専門医 2 名 日本血液学会血液専門医 1 名、 日本神経学会指導医 2 名・同専門医 5 名 日本救急医学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 6,894 名（1 ヶ月平均） 入院患者 2,100 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	1) 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、消化器、循環器、内分泌・代謝、呼吸器、血液、アレルギー（全身疾患、膠原病、感染症（ウイルス疾患）、救急等について経験できます。 2) 研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について幅広く経験することが可能です。 3) 予防医学（人間ドック）、リハビリテーションも経験可能です。
経験できる技術・技能	1) 内科各分野の基本的診断法、内視鏡検査・治療、インターベンショナルラジオロジー、放射線診断・治療など、幅広い診療技術を経験できます。

	2) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域の医療機関と連携しており、それらの医療施設との診療連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本呼吸器学会認定関連施設 日本アレルギー学会専門医教育研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本病理学会研修登録施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本神経学会准教育施設 日本てんかん学会専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本乳癌学会関連施設 日本ペインクリニック学会専門医指定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本麻酔科学会認定施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 など

11. 佐賀県医療センター好生館病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・地方独立行政法人非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 10 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 4 回、感染対策 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 12 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、膠原病を除く 12 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 21 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	- 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2014 年度実績 14 回）しています。 ・治験センターを設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2014 年度実績 12 回）

	しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	飯野忠史 【内科専攻医へのメッセージ】 総合内科専門医および subspeciality 専門医が全ての各専門内科（総合内科、呼吸器内科、消化器内科、血液内科、肝胆膵内科、腫瘍内科、糖尿病代謝内科、腎臓内科、脳神経内科、循環器内科）に在籍していますので総合内科的視野を持った subspeciality 専門医による指導が受けられます。また総合内科専門医による救急疾患、感染症疾患の指導、緩和ケア病棟での研修も経験可能です。 佐賀県医療センター好生館での研修を活かし、幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 15 名，日本内科学会総合内科専門医 20 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名，日本循環器学会循環器専門医 8 名， 日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名，日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名，日本血液学会血液専門医 7 名，日本感染症学会専門医 1 名，日本神経学会神経内科専門医 1 名，日本腎臓学会腎臓専門医 1 名，日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医、日本集中治療医学会専門医 2 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 15,095 名 入院患者 1071 名
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，膠原病の入院治療を除き（外来での経験は可能です。）全ての領域をカバーしています。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域連携室が充実しており実際の臨床の場で地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本高血圧学会専門医研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会準教育施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会専門医認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本不整脈学会及び日本心電図学会・不整脈専門医研修施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本ペインクリニック学会指定研修施設 日本プライマリー・ケア学会認定医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本インターベンショナルラジオロジー学会認定施設

	日本集中治療医学会専門医研修施設 日本病理学会研修認定施設 A 日本臨床細胞学会施設認定制度認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 など
--	---

12. 福岡中央病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・監査・コンプライアンスはグループ本部（東京事務所）で整備されています。 ・女性専攻医も安心して勤務できるよう、更衣室・休憩室・当直室（バス・トイレ完備）が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が6名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022年度実績 医療倫理 e-Learning、医療安全2回、感染対策2回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2023年度予定）に定期的に参画、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2023年度予定）を定期的に開催、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、神経、膠原病及び類縁疾患の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。総合内科でも患者を受け入れており、研修可能です。 ・剖検はグループの福岡山王病院と連携して行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・グループで倫理委員会を設置し、定期的に開催（2022年度実績6回）しています。 ・グループで治験管理委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2022年度実績12回）しています。 ・内科各分野の学会で学会発表を行うほか、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われており、専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があります。
指導責任者	岡部 泰二郎 【内科専攻医へのメッセージ】 福岡中央病院は「生命の尊厳、生命の平等」の理念のもとに、2019年4月、国際医療福祉大学・医療法人社団高邦会グループの一員として開院しました。福岡市の中心に位置し、他の医療機関との連携に加えて、あらゆる医療福祉のニーズに最高レベルで応える複合体を目指す国際医療福祉大学・高邦会グループの充実した医療・福祉施設と連携しております。専門医指導のもと基本的診察技能、診断学、検査、治療法等を幅広く習得できます。幅広い内科疾患について研修を行うことができますので、知識・技能を備えた内科専門医

	を目指して下さい。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 6 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名 日本消化器病学会消化器指導医 2 名・同専門医 3 名、 日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本内分泌学会指導医 1 名、 日本糖尿病学会指導医 1 名・同専門医 3 名、 日本神経学会指導医 4 名・同専門医 8 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 4,400 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 4,000 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	1) 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群のうち、消化器、循環器、内分泌・代謝、神経、膠原病及び類縁疾患等について、経験できます。 2) 研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	1) 各内科分野の基本的診断法、内視鏡検査・治療など、幅広い診療技術を経験できます。 2) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	グループ内をはじめ、地域の医療機関と連携しており、それらの医療施設との診療連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	・日本内科学会認定医制度教育関連病院 ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本神経学会専門医制度教育施設 ・日本リウマチ学会教育施設 ・日本糖尿病学会認定教育施設 ・日本老年医学会認定施設 など

13. 医療法人社団高邦会 高木病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署 (人事課職員担当) があります。 ・監査・コンプライアンスはグループ本部 (東京事務所) で整備されています。 ・女性専攻医も安心して勤務できるよう、更衣室・休憩室・当直室 (バス・トイレ完備) が整備されています。 ・グループ関連法人で、「認定こども園」を近隣に開設しており、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 18 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス (救急症例検討会 他) を定期的に開催、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、血液、脳神経、膠原病、救急の各分野で、定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に、年間で計 1 演題以上の学会発表をし

【整備基準 23】 4)学術活動の環境	ています。(2022 年度実績 2 演題) ・倫理委員会を設置、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置、定期的に勉強会も開催しています。 ・専攻医が学会に参加・発表(筆頭著者として執筆)する機会もあります。
指導責任者	藤本 一眞 【内科専攻医へのメッセージ】 高木病院は「生命の尊厳、生命の平等」の理念のもと、地域医療として 110 年の歴史を誇る 24 時間救急体制の急性期型総合病院です。福岡県南部の大川市・三潁郡・久留米市南部・柳川市及び佐賀県東南部地区の中核医療機関として機能しています。 第一線の医療機関として、専門医指導のもと基本的診察技能、診断学、検査、治療法を幅広く習得できます。多数の外来・入院患者と豊富な症例のもと、幅広い内科疾患について研修を行うことができますので、知識・技能を備えた内科専門医を目指してください。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 7 名、日本内科学会総合内科専門医 17 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名 日本循環器学会循環器専門医 6 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名 日本肝臓学会肝臓専門医 1 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名 日本腎臓学会腎臓専門医 2 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名 日本血液学会認定血液専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 20,894 名 入院患者 6,096 名
経験できる疾患群	・一部の症例を除き、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域・70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	・各内科分野の基本的診断法、内視鏡検査・治療、インターベンショナルラジオロジー、放射線診断・治療など、幅広い診療技術を経験できます。 ・技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	グループ内をはじめ、地元地域の医療機関と連携しており、それらの医療施設との診療連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	・日本内科学会認定医制度教育関連病院 ・日本消化器病学会専門医制度認定施設 ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本呼吸器学会認定施設 ・日本腎臓学会認定教育施設 ・日本リウマチ学会教育施設 ・日本糖尿病学会認定教育施設 I ・日本神経学会准教育施設 ・日本消化器内視鏡学会認定指導施設 ・日本血液学会研修教育施設 ほか

14. 下関市立市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・地方独立行政法人下関市立市民病院正規職員医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(人事課職員担当)があります。
--	--

	・コンプライアンスに対する院内研修を行っています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。										
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が7名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染管理対策講習会を定期的に開催し、専攻医に年2回の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・医療倫理講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付けており、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2021 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。										
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、血液および膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・剖検（2020 年度実績 2 体）を行っています。										
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	- 日本内科学会地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2021 年度実績 1 演題）をしています。 ・専攻医が学会に参加・発表する機会があります。										
指導責任者	金子武生 【内科専攻医へのメッセージ】 地域の急性期病院として様々な分野の症例を経験することができます。幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。										
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 4 名、 日本消化器病学会消化器専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、 日本糖尿病学会専門医 1 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名、 日本感染症学会感染症専門医 1 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名、 日本血液学会血液専門医 1 名、日本腎臓学会腎臓専門医 1 名										
外来・入院患者数	内科外来患者 39,357 名/年 内科入院患者 2008 名/年										
経験できる疾患群	1) 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、上記の内科症例を専門医の指導のもと経験できます。 2) 専門医のいない疾患に対しても指導医の指導のもと経験することが可能です。										
経験できる技術・技能	1) 内科疾患全般の診断、治療、超音波検査・内視鏡検査・治療・心臓カテーテル検査・治療など専門的な検査、治療など幅広い診療を経験できます。 2) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。										
経験できる地域医療・診療連携	なし										
学会認定施設 （内科系）	<table border="0"> <tr> <td>日本内科学会教育関連施設</td><td>日本感染症学会認定研修施設</td></tr> <tr> <td>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</td><td>日本がん治療認定医機構認定研修施設</td></tr> <tr> <td>日本リウマチ学会認定教育施設</td><td>日本臨床腫瘍学会認定研修施設</td></tr> <tr> <td>日本腎臓学会研修施設</td><td>日本消化器病学会認定施設</td></tr> <tr> <td>日本透析医学会認定施設</td><td>日本糖尿病学会認定教育施設</td></tr> </table>	日本内科学会教育関連施設	日本感染症学会認定研修施設	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設	日本がん治療認定医機構認定研修施設	日本リウマチ学会認定教育施設	日本臨床腫瘍学会認定研修施設	日本腎臓学会研修施設	日本消化器病学会認定施設	日本透析医学会認定施設	日本糖尿病学会認定教育施設
日本内科学会教育関連施設	日本感染症学会認定研修施設										
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設	日本がん治療認定医機構認定研修施設										
日本リウマチ学会認定教育施設	日本臨床腫瘍学会認定研修施設										
日本腎臓学会研修施設	日本消化器病学会認定施設										
日本透析医学会認定施設	日本糖尿病学会認定教育施設										

15.福岡和白病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する臨床心理士が定期的に来院しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室、更衣室、当直室が整備されています。 ・提携院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が6名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	有田 武史 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は福岡市内でも屈指の救急指定病院であり、365日24時間、重症例にいたるまで常時救急対応可能であり、幅広く急性期疾患を経験できます。また、当院は地域診療拠点病院として慢性疾患も近隣の医療機関と連携しながら診療を進めており、地域がん診療連携拠点病院として手術、薬物療法、放射線治療にも積極的に取り組んでいます。内視鏡ではESDを含めて症例多数あり、循環器内科領域では療はPCI（経皮的冠動脈形成術）、TAVI（経皮的動脈弁置換術）、EVT（血管内末梢血管治療）、心原性ショックに対するインペラ（補助人工心臓）など高度で先進的な治療を含め幅広く対応しています。当院での研修では、豊富な症例をもとに、より専門的な内科診療の診療経験だけでなくコモンディーズや超高齢社会を反映した複数の疾患・病態を持った患者の診療経験ができます。
指導医数 (常勤医)	・日本内科学会指導医6名 ・日本内科学会総合内科専門医10名 ・日本消化器内視鏡学会専門医6名 ・日本消化器病学会専門医7名 ・日本循環器学会専門医7名 ・日本呼吸器学会専門医1名 ・日本糖尿病学会指導医1名 ・日本血液学会専門医1名

	・日本臨床腫瘍学会指導医 1 名 ・日本不整脈心電学会専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来延患者 160,926 名 入院患者 9,372 名
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、急性期症候を示すほとんどの領域のほか、慢性疾患、腫瘍性疾患において診断、治療の経験が可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設（内科系）	・日本専門医機構 内科領域専門研修プログラム ・日本消化器内視鏡学会専門医指導施設 ・日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・地域がん診療連携拠点病院 ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設） ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 ・日本心血管インターベンション治療学会 IVL システム施設 ・日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 ・日本血液学会認定専門研修教育施設 ・日本消化器病学会専門医制度認定施設 ・日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医認定施設 ・日本心エコー図学会認定心エコー図専門医制度研修施設 ・日本肝臓学会認定施設 ・日本呼吸器療法医学会呼吸器療法専門研修施設 ・潜因性脳梗塞に対する卵円孔開閉閉鎖実施設 ・日本呼吸器学会呼吸器内科領域専門研修制度連携施設 など

16. 医療法人 西福岡病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・女性専攻医でも安心して勤務できるように女子更衣室、女子シャワー室が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 9 名在籍しています（下記）。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、呼吸器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・ 治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を毎月実施しています。 ・ 専攻医が国内の学会に参加・発表する機会があります。
指導責任者	原田泰子 【内科専攻医へのメッセージ】 福岡市内で唯一結核病棟がある医療機関です。 結核の診断、治療を経験することができます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 3名 日本呼吸器学会指導医 1名 日本呼吸器学会専門医 3名 日本結核病学会結核・抗酸菌指導医 1名 日本化学療法学会抗酸菌薬臨床試験指導者 1名 日本老年医学会老年病専門医 1名 日本消化器病学会専門医 3名 日本消化器内科内視鏡学会認定指導医 1名 日本消化器内視鏡学会認定専門医 1名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1名 日本糖尿病学会専門医 1名 日本循環器学会循環器専門医 1名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 206.8名 (1ヶ月平均) 入院患者 179.1名 (1ヶ月平均)
経験できる疾患群	結核病棟を有し、結核の診断治療を経験できます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域の人々に信頼される納得と安心の医療・介護・福祉の提供を目指すことを法人理念に掲げており、結核の入院受け入れやその他の地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会

17. 福岡病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 国立病院機構の非常勤医師等として勤務環境が整備されています。 ・ メンタルヘルスに適切に対処する部署（安全衛生委員会）があります。 ・ ハラスメントに関する相談等に対応するため、就業規則に基づきハラスメント相談窓口が設置されています。 ・ 国立病院機構の規定に基づき、コンプライアンス担当者が設置されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 指導医が13名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る予定です。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(年4回) ←2014年度実績(医療倫理=0回、医療安全=2回、感染対策=2回) ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、

	そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間 的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2014 年度実績福岡南呼吸器検討会 5 回、筑紫呼吸器検討会 4 回、南区合同症例検討会 3 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間 的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、呼吸器およびアレルギー、膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 2 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 1 演題） をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2014 年度実績 11 回）しています。 ・試験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2014 年度実績 12 回）しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての 執筆も定期的に行う予定です。
指導責任者	吉田 誠 【内科専攻医へのメッセージ】 国立病院機構福岡病院は、全国に 144 ある国立病院機構病院の一翼を担っています。その中であって、福岡病院は個性あふれる病院を目指しています。専門性の高さ、患者さんにやさしい病院スタッフの育成、職員同士の切磋琢磨する気風、臨床研究の風土などを特徴とする病院です。特に呼吸器・アレルギー、膠原病リウマチは多くの学会専門医を擁しています。 呼吸器内科は急性期から慢性期までの、結核を除くほとんどの呼吸器疾患を対象としており、ことに喘息・COPD 診療、呼吸リハビリテーション、睡眠呼吸障害医療、禁煙外来などが出色です。アレルギー診療はアレルギー科、皮膚科、耳鼻咽喉科が連携して、喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、花粉症などを総合的に診療しています。また福岡県の花粉情報を担当しています。 膠原病内科（リウマチ科）は、関節リウマチの新薬が続々登場して治療内容が激変しており、関節変形を起こさない治療を目指しています。平成 24 年 4 月から循環器内科を新設し、慢性心不全の診療や心臓リハビリテーションを開始しました。平成 26 年 11 月、新しく一般病棟の新築が完成し、診療、療養環境が一変いたしました。さらに診療の充実度を増していこうと職員一同頑張っております。 このユニークで、内科症例数も多い当院での研修はきっと専攻医の先生方にとって大変魅力的で役にたつと考えております。
指導医数（常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 13 名、感染症学会指導医 1 名
外来・入院 患者数	外来患者 6,026 名（1 ヶ月平均） 入院患者 8,680 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	1). 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、呼吸器、アレルギー、膠原病、感染症を経験でき呼吸不全緩和ケア治療、終末期医療等についても経験できます。 2). 多数の通院・入院患者に発生した内科疾患についてきわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある呼吸器、アレルギー、膠原病、感染症の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	1). 日本屈指の呼吸器アレルギー疾患専門病院において、診断、治療（標準治療、臨床試験・治験）、緩和ケア治療、気管支内視鏡検査・治療など 幅広い診療を経験できます。 2). 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医	福岡南呼吸器検討会や筑紫呼吸器検討会など、疾患の検討会を開催し、地域の先生

療・診療連携	方との交流をはかることによって、密接な連携が可能となっています。
学会認定施設（内科系）	日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設、日本アレルギー学会認定教育施設（内科）、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本心身医学会研修診療施設、日本感染症学会研修施設、日本睡眠学会認定医療機関、日本静脈経腸栄養学会N S T 稼働施設、臨床研修指定病院（呼吸器疾患・免疫アレルギー疾患）、臨床修練指定病院（呼吸器疾患・免疫アレルギー疾患）

18. 白十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があります。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 12 名在籍しています。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2022 年度 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスへ定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2022 年度 6 回）を定期的に開催し、専攻医に受講の時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、救急、消化器、循環器、呼吸器、感染症、代謝、腎臓および神経の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度 1 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表（2021 年度 1 題、2022 年度 1 題）。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2022 年度 3 回）しています。 ・治験審査委員会を設置し、治験事務局にて治験を管理しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、国内学会には年 2 回の参加費用を補助し、発表者には別枠で経費の補助があります。
指導責任者	岩瀬 正典 【内科専攻医へのメッセージ】 福岡・糸島医療圏の西部に位置する当院ではコモンかつフレッシュな内科疾患を多数経験できます。1 例 1 例の症例を深く掘り下げることに加え、場数を多く踏むことにより将来の内科医としての自信をつけることができます。また、院内保育施設に加えて、育児のための時短就業体制もあります。当院は九大移転などで急速に発展する福岡市西区の唯一の地域医療支援病院であり、地域医療に貢献できる全人的医療を実践できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 9 名、日本脳卒中学会専門医 6 名、日本腎臓学会専門医 4 名、日本神経学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本消化器病学会専門医 3 名、日本消化器内視鏡学会専門医 3 名、日本循環器学会専門医 2 名、日本呼吸器学会専門医 1 名

	本老年学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 平均 298 名/日 入院患者 平均 242 名/日
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、当法人内の在宅診療部門と連携し在宅診療、臓器にとらわれず全身を診れる総合内科診療を経験できます。

19. 門司掖済会病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスにはカウンセリング委員、および産業医が対応します。 ・女性医師スタッフも複数勤務しており、院内サークルでお茶、バトミントン、テニス、アンサンブルなどが活動しています。 ・更衣室、当直室が整備されています。 ・近隣に一般保育施設、病児保育施設があります。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 6 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績 医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・剖検例では CPC を開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（地元医師会合同勉強会、多地点合同メディカル・カンファレンスを含む）を積極的に開催または関与し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち少なくとも 10 分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 1 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を推奨、支援しています（2021 年度実績 1 演題）。 ・倫理委員会を設置し、必要時に開催しています。 ・専攻医が国内の学会に参加・発表する機会があります。

指導責任者	藤井健一郎 【内科専攻医へのメッセージ】 内科教育関連病院だけでなく日本高血圧学会認定研修施設となっており、高血圧に関するすべてに対応できます。また腎センターを設置しており、腎・透析専門医 2 名、臨床工学技士、看護師で構成され、透析患者数は血液透析・腹膜透析を合計し 120 名前後です。腎移植を除く腎疾患のすべてに対応できます。また、糖尿病専門医との連携により透析予防にも努めています。 胃腸内科では 3 名の専門医が内視鏡検査・治療を行い、外科とのスムーズな連携をしています。外科は消化管、乳腺、呼吸器疾患にも対応しており、診断から手術、ストマケア、化学療法、緩和療法まで一貫して診ています。 歯科・口腔外科は 2 名体制で、地域病院・診療所との連携にも重点を置いており、口腔外科を中心とした歯科治療、外傷や炎症などの救急にも対応しています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 6 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本腎臓学会専門医 2 名、日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本高血圧学会専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 5,000 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 150 名 (1 ヶ月平均)
病床	199 床 (急性期 144 床、地域包括ケア 55 床)
経験できる疾患群	研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群のうち、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く経験することが可能です。高齢者が多く、多病を有する患者が多いので、総合的診療の実践が可能です。
経験できる技術・技能	1) 技術・技能研修手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を広く経験できます。 複数の疾患を併せ持つ高齢者が多いので、検査・治療の適応、安全確認などに注意しながら実施していただきます。 2) 終末期ケア、緩和ケア、認知症ケア、褥瘡ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害を含めた栄養管理、リハビリテーションに関する技術・技能を総合的に研修することが可能です。
経験できる地域医療・診療連携	急性期病床と地域包括ケア病床を有しており、急性期医療から在宅復帰へのスムーズな移行を支援しています。 在宅緩和ケア治療、終末期の在宅診療などがん診療に関連した地域医療・診療連携を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本高血圧学会専門医認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器学会認定施設 日本外科学会外科専門医制度修練指定施設 日本消化器外科学会専門医制度関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本麻酔科学会麻酔科認定病院 歯科・口腔外科臨床研修施設

20. 浜の町病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・浜の町病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署 (総務課職員担当) があります。 ・ハラスメント委員会が浜の町病院に整備されています。
---	--

	・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 11 名在籍しています（下記）。 ・臨床研修センター（教育部内に設置、担当：統括責任者・診療部長）が内科専門研修プログラムの管理を行い、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を臨床研修センターが統括管理します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（福岡地域救急医療合同カンファレンス、福岡市内科医会、福岡市中央区内科医会、福岡市中央区消化器病症例検討会など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2024 年度実績 2 回：受講者 12 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に教育部が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 6 件、2023 年度 5 件、2024 年度 1 件）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績 2 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2024 年度実績 10 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表（2024 年度実績 8 演題）をしています。
指導責任者	衛藤徹也 【内科専攻医へのメッセージ】 浜の町病院は、福岡県福岡・糸島医療圏の中心的な急性期病院であり、福岡・糸島医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 内科ほぼすべての分野において、専門学会の指導医あるいは専門医の資格を持つ部長が指導に当たり、幅広い研修が可能です。シミュレーションラボセンターを併設しているため、高度なシミュレーターを使用して技術指導を受けることが可能です。急患や総合診療症例も多く、急性疾患から慢性疾患まで幅広く研修することが可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 25 名、日本消化器病学会消化器専門医 11 名、日本肝臓学会専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本感染症学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名、ほか

外来・入院患者数	外来患者 6,470 名（1 ヶ月平均） 入院患者 509 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会内科専門研修基幹病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会専門医制度専門医研修施設認定 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設認定 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度教育関連施設認定 日本脳卒中学会研修教育病院認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定医制度指導施設認定 日本病院総合診療医学会認定施設 など

21. 済生会福岡総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・福岡県済生会福岡総合病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が総務課に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ・敷地内に病児保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 25 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長），プログラム管理者（診療部長）（ともに内科指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績 12 回以上）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2019 年度実績 10 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（天神メディカルネットフォーラム，21 世紀循環

	器セミナー、天神消化器病カンファレンス、天神神経カンファレンス、福岡脳卒中カンファレンス福岡市内科医会研究会、福岡市中央区内科医会研究会、福岡市勤務医内科医会研究会、福岡消化器病研究会、福岡呼吸器病研究会ほか；2019年度実績 30 回以上）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2019 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 12 分野以上）で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2017 年度実績 12 体、2018 年度 12 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2019 年度実績 10 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査会（北部九州済生会共同治験委員会）を開催（2019 年度実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2017 年度実績 6 演題）をしています。
指導責任者	落合利彰（副院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 済生会福岡総合病院は、福岡県福岡・糸島医療圏の中心的な急性期病院であり、近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、総合力を備えて地域医療にも貢献し、全人的な態度で診療ができる内科専門医の育成を目指します。当院は、内科系の診療科のみならず、すべての診療科の垣根が低く、チーム医療に基づいた専門研修体制に優れています。基本理念である「良質で安全な医療」「救急医療の充実」「高度専門医療の推進」「地域医療連携」を重視し、患者本位の医療サービスを提供しています。研修においては、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する質の高い内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 25 名、日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 1 名、 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医（内科）1 名、 日本リウマチ学会専門医 1 名、日本感染症学会専門医 1 名、 日本救急医学会救急科専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 5721 名（内科系 1 ヶ月平均） 入院患者 484 名（内科系 1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設

	日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 など
--	---

22. 病院名：地域医療機能推進機構（JCHO）九州病院

認定基準 1) 専攻医の環境	● 厚生労働省臨床研修指定病院(管理型臨床研修病院)です。 ● 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。UpToDate、今日の診療と治療、医学雑誌は電子書籍になっており、図書室以外でもダウンロードして読むことができます。ダウンロードができない文献については出版社に注文しますが、病院が全額補助をしています。 ● 医局内に個人専用の机・本棚などが整備されています。 ● JCHO 九州病院非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ● メンタルストレスに適切に対処する部署(総務企画課職員+臨床心理士及び安全衛生委員会)があります。 ● ハラスメント委員会が JCHO 九州病院内に整備されています。 ● 女性専攻医が安心して勤務できるように、女性医師専用の休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ● 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	● 指導医は 33 名、総合内科専門医は 17 名在籍しています。 ● 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者は副院長、総合内科専門医かつ指導医）にて基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ● 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育センターを設置しています。 ● 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● CPC を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 地域参加型のカンファレンス（北筑カンファレンス【循環器関係、年 4 回開催】、岸の浦カンファレンス【消化器関係、偶数月開催】、八幡成人病懇話会【年 3 回】、内科医会【月 1 回】、八幡内科医会学術研究会【月 1 回】、帆柱内科カンファレンス【月 1 回】、北部福岡感染症研究会【月 1 回】、北九州胃腸懇話会【月 1 回】、北部福岡臨床救急セミナー【月 1 回】、北九州糖尿病の集い【月 1 回】）を定期的に開催し、専攻医が参加しやすいように時間的余裕を与えます。 ● プログラムに所属する専攻医に JMECC 受講を開催します。 ● 日本専門医機構による施設実地調査に教育センターが対応します。
認定基準	● カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が

【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	可能な症例数を診療しています。 ● 70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ● 専門研修に必要な剖検（過去 3 年の平均は 10 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	● 臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ● 倫理委員会を設置し、定期的に開催（年間実績 12 回）しています。 ● 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（年間 12 回）しています。 ● 日本内科学会講演会あるいは同地方会での発表をサポートします。 ● 専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	原田 大志（内科部長、統括診療部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 JCHO 九州病院（独立行政法人地域医療機能推進機構、Japan Community Healthcare Organization [JCHO]）は、その名の通り日本の地域医療機能を推進することを目標に設立された全国に 57 ある JCHO 病院群の一つです。その中でも JCHO 九州病院は福岡県北九州市・遠賀・中間医療圏の中心的高次機能・専門病院であり、また急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患などの診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身に着けることができます。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディージーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。このようにして、JCHO 九州病院での研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を通じて、将来の地域医療を担う総合内科医から内科専門分野を担う医師まで、幅広い方面で活躍できる内科専門医の養成を目指しています。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に診療に関与し、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を育てることが目標です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 18 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医(内科)0 名、日本リウマチ学会専門医 0 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 2 名、ほか
外来・入院患者数	2022 年一日平均外来患者数 743.5 人、一日平均入院患者数 418.0 人
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 56 領域、160 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	これからの超高齢化社会で人々は複数の疾患を抱え、医療・介護・福祉などが地域の中で完結する必要があります。その中で急性期/専門医療～回復期リハビリ～介護（在宅、福祉施設）の中心となって活躍している総合診療医もその中心は内科医です。JCHO 九州病院は広く地域医療を担うバランスのとれた内科専門医を養成するためにこのプログラムを作成しました。即ち、JCHO 九州病院では急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 ²³⁾ 、日本老年医学会認定施設、日本消化器学会専門医制度関連施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本不整脈学会・日本心電図学会認定不整脈専門医研修施設、

	日本超音波医学界認定専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設、ステントグラフト実施施設（腹部大動脈瘤、胸部大動脈瘤）、心臓リハビリテーション研修施設、日本呼吸器学会指導医制度関連施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本臨床細胞学会認定施設、日本神経学会専門医制度准教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設連携教育施設、日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設、日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設など
--	---

23.病院名：北九州市立医療センター

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。・※※市非常勤医師として勤務環境が保障されています。・メンタルストレスに適切に対処する窓口（職員健康ホットライン、EAP（セーフティネット））があります。・ハラスメントに関する苦情の申し出および相談は①病院局総務課 ②病院事務局管理課庶務係③総務企画局人事課 ④総務企画局給与課安全衛生係 ⑤ 総務企画局女性活躍推進課 ⑥監察官にて受付を行っています。・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー 室、当直室が整備されています。・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 13 名在籍しています（下記）。・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（統括部長）（総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・CPC を随時開催（2022 年度実績 3 回 9 症例）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・地域参加型のカンファレンス（北九州市立医療センター研修会；2022 年度実績 10 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。・日本専門医機構による施設実地調査に内科臨床研修管理委員会）が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 9 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。・専門研修に必要な剖検（2021 年度実績 10 体、2022 年度 9 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2022 年度実績 12 回）しています。・臨床研究推進センターを設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2022 年度実績 12 回）しています。・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2022 年度実績 6 演題）をしています。
指導責任者	大野 裕樹
指導医数 （常勤医）	13 人（感染症、膠原病、血液、肝臓、内分泌代謝、糖尿病、循環器、呼吸器、消化器）
外来・入院患者数	外来患者数（22,453 名 1 ヶ月平均延数） 入院患者数（10,357 名 1 ヶ月平均延 数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患 群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	矢津内科消化器科クリニック
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本感染症学会認定研修施設 日本肝臓病学会認定施設 日本血液学会認定専門研修教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本老年医学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本消化器病学会指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本循環器学会認定専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定施設 など

24.病院名：社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院

認定基準 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院常勤医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（労務管理部）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に保育所があり、利用可能です。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・内科指導医が18名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021年度実績 医療倫理1回、医療安全・感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（今後開催予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2021年度実績11回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（内科系合同カンファレンス、地域医療支援講演会；2021年度実績 内科系合同カンファレンス9回、地域医療支援講演会12回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2021年度実績6体）を行っています。
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2021年度実績2演題）をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2021年度実績1回）しています。 ・治験に適切に対応する部署があります。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	田代 英樹 【内科専攻医へのメッセージ】 当院にてJMECCも開催致しますので、皆様からのご応募をお待ちしております。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医18名、日本内科学会総合内科専門医19名 日本消化器病学会消化器病専門医5名

	日本循環器学会循環器専門医 7 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名 日本血液学会血液専門医 5 名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 0 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 4 名 日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名 日本肝臓学会肝臓専門医 1 名 日本神経学会神経内科専門医 1 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名 日本感染症学会感染症専門医 2 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 697 名（1 日平均） 入院患者 682 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科サブスペシャリティ）	日本内科学会認定医制度認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本神経学会専門医制度認定準教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本肝臓学会認定施設
学会認定施設 （その他）	日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 など

25.小倉記念病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・専攻医として労務環境が保障されています。
-------------------------------	--

	・メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室が整備されています。 ・当院と隣接する施設内に当院専用の保育所があります。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 14 名在籍しています。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に企画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2015 年実績 11 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(地域研究会、地域学術講演会、腎病理カンファレンスなどを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、主に循環器の分野において、定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	金井英俊 【内科専攻医へのメッセージ】 専攻医の皆さんの可能性を引き出し、地域医療を支える総合内科医師や内科系 subspecialty 分野の専門医へと歩み続けることができるような研修体制を行います。
指導医数 (常勤医) 重複あり	日本内科学会指導医 14 名、総合内科専門医 8 名、日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名 ほか
外来・入院患者延数	外来患者延数 195,809 名 入院患者延数 216,233 名 (平成 27 年度)
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医 教育病院 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設 日本がん治療医認定医機構認定研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設

	日本臨床細胞学会認定施設 日本病理学会研修認定施設 B 日本腹膜透析医学会教育研修施設 日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設 日本感染症学会研修施設 日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設 日本脈管学会認定研修施設 日本肝胆膵外科学会認定施設 B など
--	---

26.九州医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・国立病院機構九州医療センターの就業規則に基づき就業する。 1) 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 2) 非常勤医師として勤務環境が保障されている。 3) メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課職員担当）がある。 4) ハラスメント委員会が整備されている。 5) 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 6) 敷地内に職員保育所があり、利用可能である。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 34 名在籍している。 ・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 4 回、感染対策 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・合同カンファレンスを定期的に参画（2021 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催（2021 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、リウマチ、膠原病、感染症および救急の全ての分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 1 演題以上の学会発表をしている。 2019 年度実績 第 325 回九州地方会 1 題、第 327 回九州地方会 2 題、第 328 回九州地方会 4 題、の計 7 題 2020 年度実績 第 332 回九州地方会 2 題 2021 年度実績 第 333 回九州地方会 2 題、第 336 回九州地方会 2 題の計 4 題
指導責任者	岡田 靖 九州医療センターは九州内の大学や協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムでは初期臨床研修修了後に 3 つのコースを設け、総合力の高いリサーチマインドを持ち、サブスペシャリティにも強い質の高い内科医の育成を目指します。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全・倫理を重視し、患者に寄り添う医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 34 名、日本内科学会総合内科専門医 39 名 日本消化器病学会消化器専門医 16 名、日本循環器学会循環器専門医 12 名、 日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、 日本腎臓病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、 日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 5 名、

	日本リウマチ学会専門医 7 名, 日本感染症学会専門医 3 名, 日本救急医学会救急科専門医 2 名, 日本臨床腫瘍学会専門医 4 名ほか
外来・入院患者数	内科系外来患者 7503 名 (1 ヶ月平均) 内科系入院患者 593 名 (1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病院連携なども経験ができる。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本心療内科学会専門医研修施設 日本心身医学会研修診療施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本東洋医学会教育病院 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本胆膵学会認定胆膵症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 スtentグラフト実施施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

27.九州労災病院

認定基準 1) 専攻医 の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・当院非常勤医師として労働環境が保障されています。 ・院内に勤労者メンタルヘルスセンターがあり, 年 1 回のストレスチェック, 及び希望者には随時産業医による面談を行なっています。 ・セクハラ・パワハラ委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できる様に, 更衣室, 当直室が整備されています。 ・近隣に保育所があり, 利用可能です。
-----------------------	--

認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医 8 名在籍しています。 ・倫理、医療安全、感染対策の講演会を毎年それぞれ 1 回、2 回、2 回開催し、全職員の聴講（DVD、e ラーニング含む）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・内科カンファレンス、カンサーボードを隔週で開催し、出席を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・病理医 2 名常勤しており、専門研修に必要な剖検を行ない（2021 年度 4 件）、CPC を定期的に開催し、参加のための時間的余裕を与えています。 ・地域参加型のカンファレンス 2 回を定期的に開催し、参加のための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、呼吸器、血液、神経、膠原病および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年数演題、学会発表しています。（2021 年度 2 件） ・倫理委員会を設置し、定期的開催（年 12 回）しています。 ・治験管理室を設置し、治験審査委員会を定期的に開催（年 12 回）しています。 ・専攻医が国内外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も行われています。
指導責任者	田中誠一 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は昭和 24 年に設立された全国で最初の労災病院です。北九州医療圏と京築医療圏の境界に位置しており、両医療圏と緊密な連携を取りながら、豊富な症例を紹介して頂いています。また、災害拠点病院として急性期医療にも力を入れており、脳卒中や循環器の急性期にも対応しています。さらに地域がん診療連携拠点病院にも指定されており、幅広いがん診療を経験できます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 8 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名、 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、内視鏡専門医 2 名、肝臓病専門医 2 名、 日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、 日本内分泌学会内分泌専門医 1 名、日本血液学会血液専門医 1 名、 日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名、日本脳神経内科学会専門医 2 名、 日本呼吸器内科学会呼吸器内科専門医 1 名、気管支鏡専門医 1 名、 日本老年医学会老年病専門医 1 名、日本脳卒中学会脳卒中専門医 2 名、 脳血管内治療専門医 1 名
外来・入院患者数	内科外来患者 6,640 名（1 ヶ月平均） 入院患者 314 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、内科 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療安全だけでなく、超高齢社会に対応した、地域に根ざした医療、病診・病院連携などを経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本脳卒中学会専門医認定施設 日本脳卒中学会一次脳卒中センター 日本老年医学会認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器学会関連施設

	日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医関連認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本救急医学会救急科専門医施設 日本病理学会監修登録施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本乳癌学会専門医制度関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など
--	---

28. 松山赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院。 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 松山赤十字病院常勤医師として勤務環境が保障されている。 メンタルストレスに適切に対処する部署がある。 ハラスメント委員会が整備されている。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 敷地内に院内保育所があり、利用可能。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	指導医は 30 名在籍している。 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置し教育研修推進室と連携して研修の質を担保する。 以下のカンファレンス、講習会等を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ① 医療倫理・医療安全・感染対策等の講習会 ② 研修施設群合同カンファレンス ③ CPC ④ 地域参加型のカンファレンス ⑤ JMECC 日本専門医機構による施設実地調査には教育研修推進室が対応する。 特別連携施設研修では、電話や面談、カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行う。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野の少なくとも 12 分野で常時専門研修が可能な症例数を診療している。 70 疾患群のうち少なくとも 58 以上の疾患群について研修できる。 専門研修に必要な剖検数を確保している
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備している。 医療倫理委員会を設置し、定期的に開催している。 治験管理センターを設置し、定期的に治験審査委員会を開催している。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の発表をしている。
指導責任者	藤崎智明 【内科専攻医へのメッセージ】

	松山赤十字病院は、松山医療圏の中心的地域医療支援病院であり、当プログラムでの内科専門研修で、将来にわたり愛媛の地域医療を支える内科専門医育成を目指します。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 30 名、日本内科学会認定内科医指導医 5 名、 日本消化器病学会消化器専門医 9 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、 日本糖尿病学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 5 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 6 名、 日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 3 名、 日本感染症学会専門医 3 名、日本老年医学会専門医 2 名 日本肝臓学会専門医 6 名 日本高血圧学会専門医 1 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名 日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医・指導医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 8 名 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医 1 名、日本認知症学会認定認知症専門医 1 名、 ほか
外来・入院患者数	外来患者 13,027 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 229 名 (1 日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、 <u>研修手帳 (疾患群項目表)</u> にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 など

株式会社麻生 飯塚病院 認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	● 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ● 研修に必要な図書室とインターネット環境（有線LAN, Wi-Fi）があります。 ● 飯塚病院専攻医として勤務環境が保障されています。 ● メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として医務室があります。医務室には産業医および保健師が常駐しています。 ● 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ● 敷地内に24時間対応院内託児所、隣接する施設に病児保育室があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	● 指導医は33名在籍しています（下記）。 ● 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ● 基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会を設置します。 ● 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014年実績 医療倫理2回、医療安全24回、感染対策12回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017年度開催予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催（2014年実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 地域参加型のカンファレンス（地域研究会、地域学術講演会、地域カンファレンスなど、2014年実績73回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2017年度開催予定）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。なお、研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 ● 日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。

認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	● カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ● 〇〇疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも45以上の疾患群）について研修できます。 ● 専門研修に必要な剖検（実績：2012年度20体、2013年度20体、2014年度11体、平均17体）を行っています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	● 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ● 倫理委員会を設置し、定期的開催（2014年実績12回）しています。 ● 治験管理室を設置し、定期的受託研究審査会を開催（2014年実績12回）しています。 ● 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています（2014年実績7演題）。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります（2014年実績 国内学会132演題、海外学会17演題）。
指導責任者	増本 陽秀 【内科専攻医へのメッセージ】 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ピッツバーグ大学の教育専門医と、6年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た、教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います。 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です。将来のキャリアパスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います。

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医33名, 日本内科学会総合内科専門医28名 日本消化器病学会消化器専門医5名, 日本循環器学会循環器専門医6名, 日本糖尿病学会糖尿病専門医1名, 日本腎臓病学会腎臓専門医2名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医2名, 日本血液学会血液専門医3名, 日本神経学会神経内科専門医1名, 日本アレルギー学会アレルギー専門医2名, 日本リウマチ学会リウマチ専門医2名, 日本感染症学会専門医1名ほか
外来・入院患者数	外来患者26,561名 (1ヶ月平均) 入院患者2,445名 (1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある13領域, 70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会 教育病院 日本救急医学会 救急科指定施設 日本消化器病学会 認定施設 日本循環器学会 研修施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本血液学会 研修施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本腎臓学会 研修施設 日本肝臓学会 認定施設 日本神経学会 教育施設 日本リウマチ学会 教育施設 日本臨床腫瘍学会 研修施設 日本消化器内視鏡学会 指導施設 日本消化管学会 胃腸科指導施設 日本呼吸器内視鏡学会 認定施設 日本呼吸療法医学会 研修施設 飯塚・額田家庭医療プログラム 日本緩和医療学会 認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設A 日本胆道学会指導施設 日本がん治療医認定医機構 認定研修施設 日本透析医学会 認定施設 日本高血圧学会 認定施設 日本脳卒中学会 研修教育病院

	日本臨床細胞学会 教育研修施設 日本東洋医学会 研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST稼働施設 日本栄養療法推進協議会 NST稼働施設 など
--	---

30. 前田病院

認定基準 1) 専攻医の環境	・院内でのインターネット環境（端末を個人支給および Wi-Fi 環境）があります。 ・前田病院の常勤医師として勤務環境が保障されます。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康サポート室：産業カウンセラー、心理カウンセラーを配置）が設置されています。 ・ハラスメントに対応するハラスメント委員会が院内に設置されています。 ・女性専攻医が勤務できるように、当直室、シャワー室、更衣室、休憩室が整備されています。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスは佐賀県医師会が定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、腎臓、内分泌代謝および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度ではなく、一次・二次の内科救急疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	前田篤宏 【内科専攻医へのメッセージ】 慢性腎臓病(CKD)患者数は 1330 万人で 15 歳以上の人口の 8 人に 1 人。 透析患者数は 33 万人で 15 歳以上の人口の 330 人に 1 人に当たります。 どの診療科に進まれても CKD・透析患者を診療する機会が多いと思われますので、当院での仕事を通して CKD・透析患者の特性と対処法を習得して頂ければ幸いです。 当院では透析の予防に最も力を入れており、糖尿病専門医 2 名、腎臓専門医 3 名、透析専門医 4 名・管理栄養士 3 名・運動トレーナー 3 名の知恵を出し合っ

	て、血糖・血圧・食事・運動管理を中心に CKD 対策を行っています。 透析については 6 時間透析患者 264 名、オーバーナイト透析患者 31 名、腹膜透析患者 4 名、在宅透析患者 5 名と色々な透析を経験する事が出来ます。 またシャント手術が年間 30 例、シャント PTA が年間 195 例ありますので、それらの手技の取得も可能です。 折角のご縁ですから、一緒に学んで行きましょう！
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 3 名、同 総合専門医 5 名、日本腎臓学会専門医 3 名、 日本腎臓学会腎臓指導医 1 名、日本透析医学会透析専門医 4 名、 日本透析医学会専指導医 1 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、 日本血液学会血液専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 5,510 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 91 名 (1 日平均)
病床	129 床 (医療一般病床 51 床 医療療養病床 78 床)
経験できる疾患群	・糖尿病患者、慢性腎臓病患者、血液透析療法中の患者、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、内科領域疾患を広く経験することになります。 ・複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・療養方針の考え方についても学ぶことができます。
経験できる技術・技能	・糖尿病患者の血糖管理・食事療法の教育、慢性腎臓病患者の治療、血液透析患者に対する透析療法、バスキュラーアクセスの作成、高齢者診療の枠組みの中で、内科専攻医に必要な診察や技術・技能を経験できます。 ・生活習慣病診療を中心とした内科外来としての日常診療、リスク因子管理が経験できます。
経験できる地域医療・診療連携	患者の在宅復帰や退院後の療養環境の決定とその実現に向け、地域連携課や現場のスタッフとともに多職種による決定・実施のプロセスを経験できます。同時に他施設とのかかわり、地域医療の実際を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本腎臓学会専門医制度教育施設 日本糖尿病学会専門医制度教育施設 日本透析医学会教育施設

31.九州中央病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・九州中央病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処するメンタルヘルスセンターがあります。 ・ハラスメント委員会が庶務課に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 15 名在籍しています (下記)。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催 (2022 年度実績 5 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス (胃腸カンファレンス、呼吸器疾患勉強会、九中循

	環器医療連携勉強会、南区糖尿病を考える会、救急医療勉強会、がん診療研修会など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・特別連携施設は現時点では本プログラムには含まれていませんが、今後地域医療を鑑み、本プログラムにおける必要性が認められた際には追加を検討します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2021 年度 12 件）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を定期開催しており、2017 年度には臨床倫理委員会を発足しました。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2022 年度実績 11 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 5 演題以上の学会発表（2022 年度実績 8 演題、内研修医奨励賞を 1 回受賞）をしています。
指導責任者	竹迫 仁則 【内科専攻医へのメッセージ】 九州中央病院は、福岡市南区大橋液から徒歩 5 分に位置した 330 床の急性期病院であり、10 つの内科系診療科（総合内科、糖尿病・内分泌内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、肝臓内科、膵臓内科、脳神経内科、腎臓内科、心療内科）と救急部により、内科領域全般の疾患を研修できる体制が敷かれています。特に、救急搬入件数は年間 5,500 台を超えており、各専門内科の 24 時間オンコール体制の支援により、プライマリーケアから専門内科での緊急対応まで充実した研修が行えます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 15 名、日本内科学会総合内科専門医 13 名、 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、 日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓学会専門医 1 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本肝臓学会専門医 4 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 5,052 名（月平均） 入院患者 483 名（月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本透析医学会教育関連施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本カプセル内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設

	など
--	----

32. 福岡東医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立病院機構非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会を院内に設置しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 23 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（院長）、プログラム管理者（臨床研究部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2022 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：部カンファレンス、救急プライマリカンファレンス、臨床連携カンファレンス、かすや腎臓セミナー、粕屋・宗像呼吸器フォーラム、医師・薬剤師・看護師のための多職種連携実方講演会、福岡東循環器懇談会、Stroke web、粕屋三師会地域連携医療後援会、感染対策連携施設合同カンファレンス（2022 年度実績 17 回）） ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・特別連携施設の専門研修は、本プログラムにはありませんが、今後地域医療の現状から追加の必要性が認められた場合にはプログラム委員会で検討します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 11 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうち 35 以上疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 8 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、臨床研究室などを整備しています。 ・臨床研修審査委員会を設置し、定期的に開催（2022 年度実績 11 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で学会発表をしています。
指導責任者	黒岩 三佳 【内科専攻医へのメッセージ】 福岡東医療センターは、福岡県粕屋保健医療圏の中心的な急性期病院であり、福岡医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。

	主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 23 名、日本内科学会総合内科専門医 23 名 日本消化器病学会消化器専門 11 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 3 名、 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医 (内科) 2 名、 日本リウマチ学会専門医 1 名、日本感染症学会専門医 1 名、 日本救急医学会救急科専門医 2 名、ほか
外来・入院患者数 経験できる疾患群	内科系外来患者 6,374 名 (1 ヶ月平均) 内科系入院患者 6,545 名 (1 ヶ月平均) きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・ 技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病院連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定医制度認定施設 日本消化管学会認定胃腸科指導施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本心血管インターベンション学会認定研修関連施設 日本血液学会認定専門研修教育施設 など

33. 医療法人社団絃和会平和台病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・九州大学シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する安全衛生管理部門があります。 ・ハラスメント委員会(衛生委員会)が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
---	--

認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 2 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置（2023 年度予定）して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2021 年度実績 医療倫理 2 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（準備中）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、内分泌、代謝の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 又、透析部門(血液透析)を併設しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本糖尿病学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2021 年度実績 4 演題)をしています。
指導責任者	天野 一志 【内科専攻医へのメッセージ】 平和台病院は宮崎県宮崎市において糖尿病専門病院として常勤の糖尿病専門医 5 名（うち指導医 2 名）と多くの専門知識を備えたスタッフが所属し、4000 人前後の糖尿病患者が通院しています。そのほか内科系各専門医、放射線専門医が在籍しており、若手医師の教育に非常に適切な環境です。糖尿病は高い有病率と多くの重大な合併症を併発する点から、内科診療医も習熟すべき疾患であることは疑いようがありません。宮崎大学附属病院及び宮崎県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 (常勤医)	日本糖尿病学会指導医 2 名 日本糖尿病学会専門医 5 名 日本内科学会総合内科専門医 2 名 日本医学放射線科学会放射線診断専門医 1 名 日本消化器内視鏡学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 180 名（1 ヶ月平均） 入院患者 1,672 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例の内、内分泌、代謝の分野を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療、慢性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病院連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本糖尿病学会認定教育施設

34. 大分県立病院

認定基準	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
------	----------------------------

1)専攻医の環境	・大分県非常勤医師として「大分県病院局職員就業規程」及び「大分県病院局職員服務規程」に従います。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 ・総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は、大分県立病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図ります。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	1)内科領域の救急対応、2)最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、3)標準的な医療安全や感染対策に関する事項、4)医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、5)専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて、以下の方法で研鑽します。 ①定期的（毎週1回程度）に開催する各診療科での抄読会 ②医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（基幹施設2022年度実績3回）※内科専攻医は年に2回以上受講します。 ③CPC（基幹施設2022年度：解剖症例が対象のCPC2回） ④JMECC受講 ⑤内科系学術集会 ⑥各種指導医講習会/JMECC指導者講習会 など
認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	Subspecialty 領域に拘泥せず、内科として入院患者を順次主担当医として担当します。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	大分県立病院内科専門研修施設群は基幹・連携病院のいずれにおいても、 ①内科系の学術集会や企画に年2回以上参加します（必須）。※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPCおよび内科系Subspecialty学会の学術講演会・講習会を推奨します。 ②経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。 ③臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。 ④内科学に通じる基礎研究を行います。 以上を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者2件以上行います。 なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、大分県立病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。
指導責任者	柴富 和貴 【内科専攻医へのメッセージ】 本プログラムは、大分県中部医療圏の中心的な急性期病院である大分県立病院を基幹施設として、大分県中部医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て大分県の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として大分県全域を支える内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	24人
外来・入院患者数	診療患者数888名（1日平均）、入院患者数421名（1日平均）
経験できる疾患群	基幹施設である大分県立病院での2年間と専門研修施設群での1年間（専攻医3年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で56疾患群、160症例以上を経験し、J-OSLERに登録できます。可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群、200症例以上

	の経験を目標とします。
経験できる技術・技能	大分県立病院内科専門医研修プログラムでは、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
経験できる地域医療・診療連携	基幹施設である大分県立病院は、大分県中部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディージーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
学会認定施設（内科系）	

3) 特別連携施設

1. 日本赤十字社 今津赤十字病院

認定基準 1)専攻医の環境	・ 初期医療研修における地域医療研修施設です。 ・ 研修に必要なインターネット環境があります。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当および産業医）があります。 ・ ハラスメント委員会（職員暴言・暴力担当窓口）が病院内に設置されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室 が整備されています。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（令和4年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 基幹施設である福岡赤十字病院で行う CPC、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・ 地域参加型のカンファレンス（在宅医療及び地域医療に関する研究会、循環器研究会、消化器病研修会）は基幹病院および福岡市医師会、糸島市医師会が定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、老年、神経の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。神経の分野については、診断よりも、在宅医療や、慢性期医療に関する診療が中心です。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（令和4 年度実績 0 演題）を計画しています。
指導責任者	尾前 豪 【内科専攻医へのメッセージ】 今津赤十字病院は福岡県福岡市西区糸島半島内にあり、福岡市西区と糸島市の医療圏にあります。昭和4年に結核療養所として創立され、昭和 50 年代より、老年医療、特に認知症に関する診療に力を入れてきました。現在は、地域医療にも力を入れるようになっていきます。内科と精神科の病院で、基本理念は「私たちは、人道・博愛の精神のもと患者様に信頼される医療を行います」です。基本方針として、地域医療、全人的医療、医療と福祉の架け橋、を掲げています。 在宅療養を支援する病院であり、地域包括ケアに力を入れています。在宅復帰後

	は、地域の開業医の先生方とも連携し、訪問看護ステーションと協力しながら、在宅復帰後も、関わっていく方針にしています。また、障害者施設等一般病棟もあり、神経難病の患者さんの受け入れや、在宅診療の支援も行っています。在宅医療も必要に応じて訪問診療もおこなっており、希望にあわせて癌等の在宅での看取りなども行っています。退院に際しては、必要に応じて病棟で看護、リハビリ、訪問看護など多職種でカンファレンスを実施し、在宅療養の準備を進め、外来・在宅担当医師・訪問看護、介護職へとつないでいます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 0 名、日本内科学会総合内科専門医 1 名、日本老年医学会指導医 1 名、日本老年医学会専門医 2 名、日本プライマリ・ケア連合学会指導医 2 名、日本プライマリ・ケア連合学会認定医 2 名、日本消化器病学会消化器病専門医 1 名、リハビリテーション科専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 内科 16 名 精神科 57 名 (令和 4 年度、一日平均) 入院患者 内科 93 名 精神科 53 名 (令和 4 年度 一日平均)
経験できる疾患群	180 床 (地域包括ケア病床 30 床、障害者施設等一般病棟 60 床、精神科病床 60 床、医療療養病床 30 床 うち、COVID-19 用病床 3 床)
経験できる技術・技能	高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、幅広い疾患を経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。また、障害者施設等一般病棟には、神経難病の患者さんも入院しており、診断後に抱える患者さんの問題点や、在宅療養を続けるうえでの問題点なども経験していただくことになると思います。
経験できる地域医療・診療連携	内科と精神科の病院で、内科は一般病床 (地域包括ケア病棟、障害者施設等) と療養病床があり、地域医療にも力を入れているため、必要に応じて訪問診療や在宅での看取りなども行っています。このため、急性期病院では、気が付くことが困難である退院してからの問題点や、退院してから明らかとなった問題点を患者一人一人にあわせ、多職種と連携しながら如何に退院後の生活を行っていくかを検討するかを経験してもらいます。また、機会があれば、在宅での看取りなどを経験することもできます。高齢者が多いため、一つの疾患でなく、多数の疾患を抱えているために、家族とのかかわりのあり方なども経験していただきます。精神科は認知症に特化しているために、認知症があるがゆえに、治療困難な内科疾患の対応なども経験することができます。
学会認定施設 (内科系)	入院診療に関しては、急性期病院から急性期治療後に転院してくる入院患者の診療では、残存機能の評価を行い、退院後の療養方針の検討するために、家族や多職種との連携を行います。退院に向けてそれぞれの患者さんに合わせて適切な退院先の調整や在宅へ復帰する患者については、地域の内科病院としての外来診療又は訪問診療、訪問看護や介護施設などとの連携も検討する必要があります。地域においては、連携している特別養護老人ホームへの訪問診療と、連携施設からの急病時診療連携も行っています。必要に応じて訪問診療を行っており、在宅療養を支援する病院としての入院患者受入も行っています。また、神経難病で在宅療養者において、在宅療養を維持するために行っている短期入院も受け入れています。

2. 日本赤十字社 嘉麻赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期医療研修における地域医療研修施設です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境 (Wi-Fi) があります。 ・嘉麻赤十字病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署 (事務室職員担当および産業医) があります。 ・ハラスメント委員会 (職員暴言・暴力担当窓口) が嘉麻赤十字病院に設置され
--------------------------------	---

	ています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、官舎、更衣室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設である福岡赤十字病院で行う CPC，もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・地域参加型のカンファレンス（呼吸器研究会，循環器研究会，消化器病研修会）は基幹病院および飯塚市医師会が定期的に開催しており，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えています。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，神経など，および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については，高度ではなく，一次・二次の内科救急疾患，より一般的な疾患が中心となります。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 0 演題）を予定しています。
指導責任者	目野 宏 【内科専攻医へのメッセージ】 嘉麻赤十字病院は福岡県飯塚医療圏の嘉麻市にあり，昭和 13 年設立，地域医療に携わる，内科他 11 の診療科を標榜している病院です。理念は「人道・博愛・奉仕の赤十字精神にのっとり，地域に密着した温もりのある質の高い医療の実践に努めます。」です。 病床としては，①急性期後の慢性期・長期療養患者診療，②慢性期患者の在宅医療（自宅・施設）復帰支援を行う一方，③外来からの急性疾患患者の入院治療・在宅復帰，④在宅患者（自院の在宅患者，および連携医療機関の在宅患者）の入院治療・在宅復帰，に力を注いでいます。 在宅医療は，医師による訪問診療をおこなっています。病棟・外来・併設訪問看護ステーション・併設居宅介護支援事業所との連携のもとに実施しています。 病棟では医師を含め各職種が協力してチーム医療をおこない，各医師・各職種および家族を含めたカンファレンスを実施し治療の方向性，在宅療養の準備を進め，外来・在宅担当医師・スタッフへとつないでいます。
指導医数（常勤医）	日本内科学会認定内科医 2 名、日本糖尿病学会専門医 1 名（再掲）、日本消化器学会専門医 1 名（再掲）、日本消化器学会内視鏡専門医 1 名（再掲）
外来・入院患者数	外来患者 281.9 名（平成 26 年度 1 日平均） 入院患者 108.0 名（平成 26 年度 1 日平均）
病床	142 床（特殊疾患病棟入院料 48 床、一般病棟基本入院料 51 床、地域包括ケア病棟入院料 43 床）
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域，70 疾患群の症例については，高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて，広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を，地域医療病院という枠組みのなかで，経験していただきます。 健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ、急性期をすぎた療養患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価）。複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について。患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方・嚥下機能評価（嚥下造影にもとづく）による，機能に見合った食事の提供と誤嚥

	防止への取り組み、褥創についてのチームアプローチ。
経験できる地域医療・診療連携	入院診療については、急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療。残存機能の評価、多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と、その実施にむけた調整。 在宅へ復帰する患者については、地域の内科病院としての外来診療と訪問診療、それを相互補完する訪問看護との連携、ケアマネージャーによるケアマネジメント（介護）と、医療との連携について。 地域においては、連携している有料老人ホームにおける訪問診療と、急病時の診療連携、在宅療養支援病院としての入院受入患者診療。地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携。 地域における産業医としての役割。
学会認定施設（内科系）	

3. 福岡ゆたか中央病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が2名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021年度実績、医療安全12回、感染対策12回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2022年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器および膠原病の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2020年度実績1体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。
指導責任者	松本 高宏 【内科専攻医へのメッセージ】 多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く研修を行うことができます。 幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 1名、日本内科学会総合内科専門医 1名 日本消化器病学会消化器専門医 2名、日本循環器学会循環器専門医 1名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3名、日本リウマチ学会指導医 1名、日本消化器内視鏡学会指導医 1名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 1名、総合診療専門研修指導医（プライマリ・ケア認定）1名
外来・入院患者数	総外来患者 11,201名（実数） 総入院患者 1,910名（実数）

経験できる疾患群	研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	
学会認定施設 (内科系)	日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 日本内科学会教育関連病院

4. 永富脳神経外科病院

書式変更：下線なし

認定基準 1) 専攻医の環境	・院内でのインターネット環境（端末を個人支給および Wi-Fi 環境）があります。 ・永富脳神経外科病院の常勤医師として勤務環境が保障されます。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署が設置されています。 ・ハラスメントに対応する部署（総務部担当職員）が院内に設置されています。 ・女性専攻医が勤務できるように、当直室、シャワー室、休憩室が整備されています。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本内科学会が企画する CPC の受講を、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスは分県医師会が定期的に開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、神経および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度ではなく、一次・二次の内科救急疾患が中心となります。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	湧川 佳幸 【内科専攻医へのメッセージ】 永富脳神経外科病院は大分県中部医療圏の大分市にあり、脳神経外科以外に脳神経内科、脳血管内科、リハビリテーション科、放射線科、呼吸器消化器内科、眼科を標榜し、救急告示病院（大分市 2 次救急指定）として地域医療に携わっております。脳卒中診療にも取り組み、日本脳卒中学会より一次脳卒中センターの認定を受けております。 入院病棟は急性期一般病棟の他、回復期リハビリテーション病棟、療養病棟があり、「人間愛と生命の尊厳」を理念とし、急性期の救命救急（超急性期血栓回収療法も含む）から回復期リハビリ、療養病棟や老健の運営を通じた維持期療養環境の確保、医師を含めた各職種が協力して行うチーム医療の実施、多職種および家族を含めたカンファレンスでの方針決定や在宅復帰の準備など、対象患者が必要な医療サービスを受けられることを第一に、自施設の運営と地域の医療機関・介護施設等との連携に努めております。
指導医数	日本内科学会指導医 0 名、同 総合専門医 0 名

(常勤医)	日本神経学会神経内科専門医 1名、日本脳卒中学会脳卒中専門医 6名
外来・入院患者数	外来患者 1,422名 (1ヶ月平均) 入院患者 116名 (1日平均)
病床	153床 (一般病床 122床 医療療養病床 31床)
経験できる疾患群	・脳卒中を含む脳神経疾患患者・高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、内科領域疾患を広く経験することになります。 ・複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・療養方針の考え方についても学ぶことができます。
経験できる技術・技能	・脳卒中を含む脳神経疾患の診療・高齢者診療の枠組みの中で、超急性期から回復期・維持期までの内科専攻医に必要な診察や技術・技能を経験できます。 ・脳神経疾患や生活習慣病診療を中心とした内科外来としての日常診療、リスク因子管理が経験できます。
経験できる地域医療・診療連携	患者の在宅復帰や退院後の療養環境の決定とその実現に向け、医療連携室や現場のスタッフとともに多職種による決定・実施のプロセスを経験できます。同時に他施設とのかかわり、地域医療の実際を経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本神経学会専門医制度准教育施設

書式変更: 下線なし

福岡赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会

福岡赤十字病院

大坪 俊夫 (プログラム統括責任者、委員長、感染分野責任者)
~~平川 克哉~~ (消化器分野責任者、基幹施設委員長)
~~満生 浩司~~ (腎臓分野責任者、連携施設委員長)
~~平川 克哉~~ (消化器分野責任者) ~~徳本 満生正憲~~ (腎臓分野責任者、連携施設委員長)
井上 靖 (膠原病分野責任者)
中垣 憲明 (呼吸器分野責任者)
谷本 一樹 (血液・腫瘍分野責任者)
北山 次郎 (神経内科分野責任者)
岩下 英之 (肝臓分野責任者)
向井 靖 (循環器分野責任者)
友尻 茂樹 (救急分野責任者)
井元 博文 (代謝分野責任者)
白石 裕子 ~~西 憲人~~ (事務局代表、臨床教育センター事務担当)

連携施設担当委員

九州大学病院	桑原 綾子 三宅 典子
九州大学別府病院	伊藤 能清
九州がんセンター	杉本 理恵
小倉医療センター	佐藤 丈顕
製鉄記念八幡病院	古賀 徳之
済生会二日市病院	中村 亮
原三信病院	高木 陽一
福岡市民病院	小柳 年正
山口赤十字病院	末兼 浩史
福岡山王病院	石橋 大海
佐賀県医療センター好生館	杉森 宏
福岡中央病院	樋口 雅則

高木病院	林 真一郎
下関市立市民病院	金子 武生
和白病院	有田 武史
西福岡病院	原田 泰子
福岡病院	野上 裕子
白十字病院	入江 克実
今津赤十字病院	尾前 豪
嘉麻赤十字病院	目野 宏
門司掖済会病院	藤井 健一郎
福岡ゆたか病院	松本 高宏
浜の町病院	三ツ木 健二
済生会福岡総合病院	明石 哲郎
JCHO 九州病院	原田 大志
北九州市立医療センター	西坂 浩明
聖マリア病院	福田 賢治
小倉記念病院	米澤 昭仁
九州医療センター	石田 素子
九州労災病院	田中 誠一
松山赤十字病院	藤崎 智明
飯塚病院	井村 洋
前田病院	前田 篤宏

専攻医研修マニュアル

1) 専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は、(1) 高い倫理観を持ち、(2) 最新の標準的医療を実践し、(3) 安全な医療を心がけ、(4) プロフェッショナルリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。

内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

① 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）

② 内科系救急医療の専門医

③ 病院での総合内科（Generality）の専門医

④ 総合内科的視点を持った Subspecialist

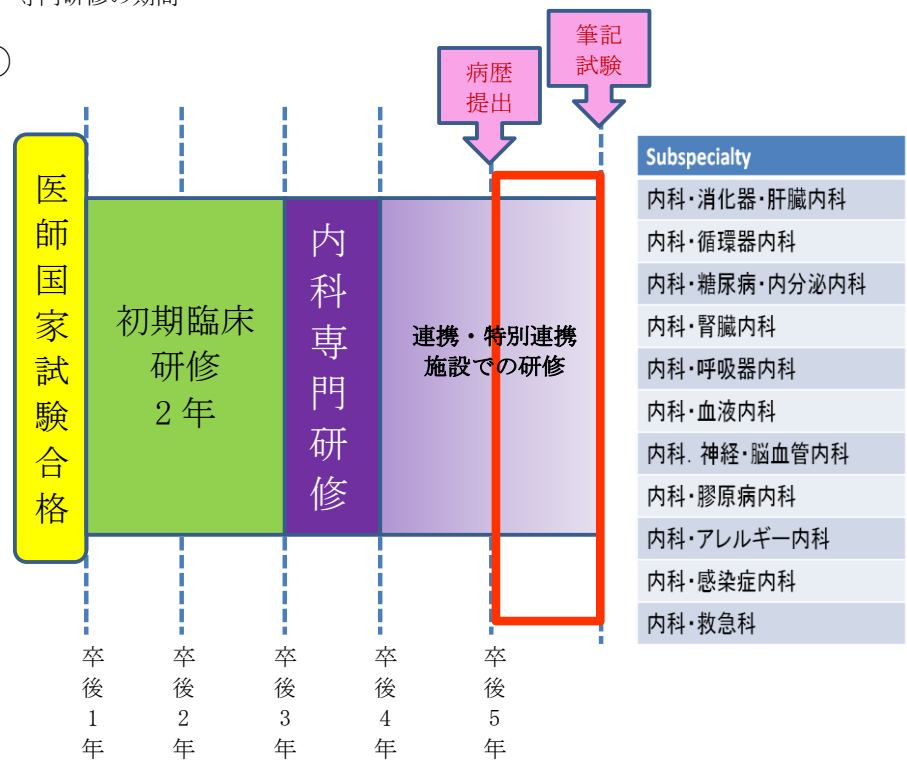
に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

福岡赤十字病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナルリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、福岡・糸島医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

福岡赤十字病院内科専門研修プログラム終了後には、福岡赤十字病院内科施設群専門研修施設群（下記）だけでなく、専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務する、または希望する大学院などで研究者として働くことも可能です。

2) 専門研修の期間

①

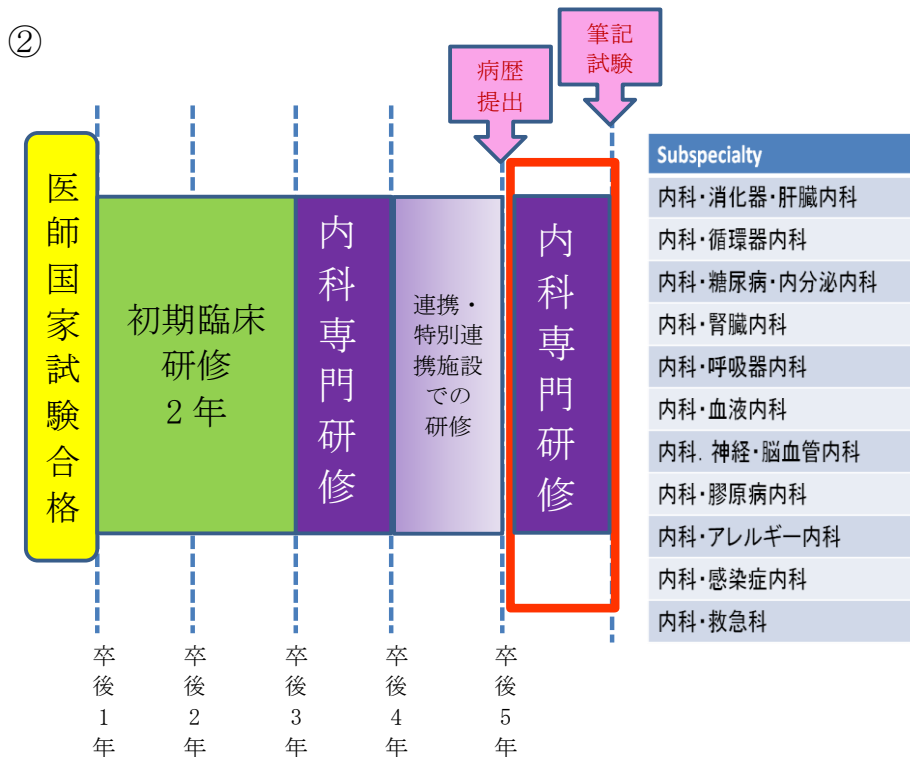


例 1. 福岡赤十字病院内科専門研修プログラム（概念図）

基幹施設である福岡赤十字病院内科で、専門研修（専攻医）1年目に1年間の専門研修を行います。

専攻医1年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）などを基に、専門研修（専攻医）2年目の研修施設を調整し決定します。病歴提出を終える専門研修（専攻医）3年目の1年間も連携施設、特別連携施設で研修をします。（例 1）

なお、研修達成度によっては subspecialty 研修も可能です。（個々人により異なります）



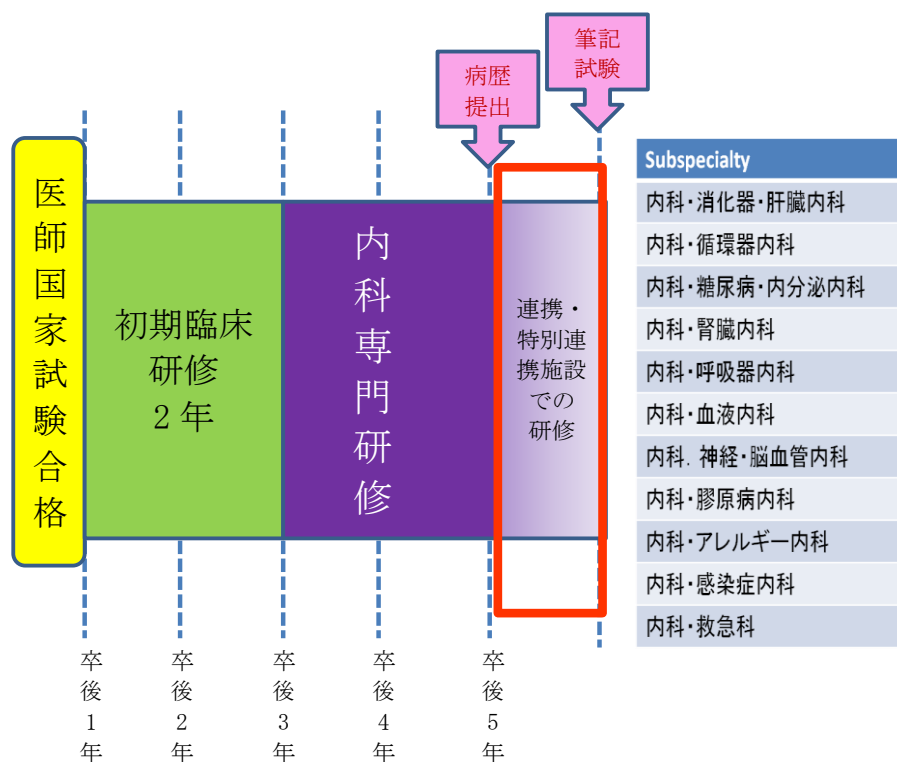
例 2. 福岡赤十字病院内科専門研修プログラム（概念図）

基幹施設である福岡赤十字病院内科で、専門研修（専攻医）1年目に1年間の専門研修を行います。

専攻医1年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）などを基に、専門研修（専攻医）2年目の研修施設を調整し決定します。病歴提出を終える専門研修（専攻医）3年目の1年間は基幹施設で研修をします。（例 2）

なお、研修達成度によっては subspecialty 研修も可能です。（個々人により異なります）

③



例 3. 福岡赤十字病院内科専門研修プログラム（概念図）

基幹施設である福岡赤十字病院内科で、専門研修（専攻医）1年目、2年目に2年間の専門研修を行います。

専攻医2年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）などを基に、専門研修（専攻医）3年目の研修施設を調整し決定します。病歴提出を終える専門研修（専攻医）3年目の1年間、連携施設、特別連携施設で研修をします。（例3）

なお、研修達成度によっては subspecialty 研修も可能です。（個々人により異なります）

Subspecialty 重点コース

例) 循環器内科をSubspecialtyにした場合の重点コース												
専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	循環器内科にて初期トレーニング				他内科1		他内科2		他内科3		他内科4	
			5月から1回/月のプライマリケア当直研修を 6か月間行います(プログラムの要件)									
	1年目にJMECCを受講(プログラムの要件)											
2年目	他内科5		他内科6		他内科7		他内科8		他内科9		予備(充足してい ない領域をロー テーション)	
										内科専門医取得のための 病歴提出準備		
3年目	連携施設											
	初診+再診外来 週に1回担当(プログラムの要件)											
その他のプログラム要件			安全管理セミナー、感染セミナーの週に2回の受講、CPC受講									

3) 研修施設群の各施設名 (P. 21「福岡赤十字病院研修施設群」参照)

基幹施設： 日本赤十字社 福岡赤十字病院

連携施設： 九州大学病院、九州大学別府病院、九州がんセンター、小倉医療センター、製鉄記念八幡病院、済生会二日市病院、原三信病院、福岡市民病院、山口赤十字病院、福岡山王病院、佐賀県医療センター好生館、福岡中央病院、高木病院、下関市立市民病院、和白病院、西福岡病院、福岡病院、白十字病院、門司掖済会病院、浜の町病院、済生会福岡総合病院、JCHO九州病院、北九州市立医療センター、聖マリア病院、小倉記念病院、九州医療センター、九州労災病院、松山赤十字病院、飯塚病院、前田病院

特別連携施設： 日本赤十字社 今津赤十字病院、日本赤十字社 嘉麻赤十字病院
福岡ゆたか中央病院、永富脳神経外科病院

4) プログラムに関わる委員会と委員、および指導医名

福岡赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会と委員名 (P. 56「福岡赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照)

福岡赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会

福岡赤十字病院

大坪 俊夫 (プログラム統括責任者、委員長、感染分野責任者)

平川 克哉 (消化器分野責任者、基幹施設委員長)

徳本満生 浩司正憲 (腎臓分野責任者、~~連携施設委員長~~)

中川 瑞穂 (内分泌分野責任者) ~~平川 克哉~~ (消化器分野責任者)

井上 靖 (膠原病分野責任者)

中垣 憲明 (呼吸器分野責任者)

谷本	一樹	(血液・腫瘍分野責任者)
北山	次郎	(神経内科分野責任者)
岩下	英之	(肝臓分野責任者)
向井	靖	(循環器分野責任者)
友尻	茂樹	(救急分野責任者)
井元	博文	(代謝分野責任者)
白石	裕子	西一憲人 (事務局代表、臨床教育センター事務担当)

連携施設担当委員

九州大学病院	桑畑 綾子 三宅一典子
九州大学別府病院	伊藤 能清
九州がんセンター	杉本 理恵
小倉医療センター	佐藤 丈顕
製鉄記念八幡病院	古賀 徳之
済生会二日市病院	中村 亮
原三信病院	高木 陽一
福岡市民病院	小柳 年正
山口赤十字病院	末兼 浩史
福岡山王病院	石橋 大海
佐賀県医療センター好生館	杉森 宏
福岡中央病院	樋口 雅則
高木病院	林 真一郎
下関市立市民病院	金子 武生
西福岡病院	原田 泰子
福岡病院	野上 裕子
白十字病院	入江 克実
今津赤十字病院	尾前 豪
嘉麻赤十字病院	目野 宏
<u>門司掖済会病院</u>	<u>藤井 健一郎</u>
<u>福岡ゆたか病院</u>	<u>松本 高宏</u>
浜の町病院	三ツ木 健二
済生会福岡総合病院	明石 哲郎
JCHO 九州病院	原田 大志
北九州市立医療センター	西坂 浩明
聖マリア病院	福田 賢治
小倉記念病院	米澤 昭仁
九州医療センター	石田 素子
九州労災病院	田中 誠一
松山赤十字病院	藤崎 智明
飯塚病院	井村 洋
<u>前田病院</u>	<u>前田 篤宏</u>

5) 各施設での研修内容と期間

専攻医 1 年目及び 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に、専門研修（専攻医）2 年目、3 年目の研修施設を調整し決定します。3 年間のうちで最低 1 年間は、連携施設、特別連携施設で研修をします。（例 1～3）

6) 本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である福岡赤十字病院診療科別診療実績を以下の表に示します。福岡赤十字病院は地域基幹病院であり、コモンディジーズを中心に診療しています。

2014 年実績	入院患者実数 (人/年)	外来延患者数 (延人数/年)
総合診療科	364	9,960
消化器内科	887	10,028
循環器内科	1,066	12,721
内分泌内科	26	5,234
糖尿病・代謝内科	555	21,042
腎臓内科	737	15,181
呼吸器内科	536	5,987
血液・腫瘍内科	306	1,991
脳血管内科	333	3,136
膠原病内科	182	5,215
感染症内科	135	934
救急科 (救急車)	2,015 (うち救急科としての入院 (中毒など) 55、その他の診 療科 1、960、多くは内科系)	5,593 (うち救急部が初期対応 4、 887、各診療科が最初から対 応 706)

- * 内分泌領域の入院患者は少なめですが、外来患者診療を含め、1 学年 7 名に対し十分な症例を経験可能です。「アレルギー」疾患は呼吸器や膠原病内科を主としてほぼ全科で対応可能です。「神経」は「脳血管内科」が脳卒中、脳炎・髄膜炎、てんかん、認知症患者にも対応し、変性疾患や免疫性神経疾患に対しても可能な範囲で入院加療も行っています。
- * 12 領域の専門医は「内分泌」「アレルギー」、「神経」以外は少なくとも 1 名以上在籍しています。（P. 21「福岡赤十字病院内科専門研修 施設群」参照）なお、専門研修開始前年の 2016 年 4 月には神経内科専門医も赴任する予定です。
- * 剖検体数は 2013 年度 13 体、2014 年度 15 体です。

7) 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

Subspecialty 領域に拘泥せず、内科として入院患者を順次主担当医として担当します。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

入院患者担当の目安（基幹施設：福岡赤十字病院での一例）

当該月に以下の主たる病態を示す入院患者を主担当医として受持ちます。

専攻医 1 人あたりの受持ち患者数は、受持ち患者の重症度などを加味して、担当指導医、Subspecialty 上級医の判断で 5～10 名程度を受け持ちます。

専攻医ローテーションの 1 例



* 各科ローテート終了時の担当患者は、そのまま退院するまで主担当医として診療に当たるか、次に回ってくる専攻医または専門科の医師に引き継ぎます。その時点での領域での経験済みの疾患群や患者数等により、担当指導医、Subspecialty 上級医とも相談の上で決定します。

8) 自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。必要に応じて臨時に行うことがあります。

評価終了後、1 か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け、その後の改善を期して最善をつくします。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医からのフィードバックを受け、さらに改善するように最善をつくします。

9) プログラム修了の基準

① 日本内科学会の専攻医登録評価システム (J-OSLER) を用いて、以下の i) ～vi) の修了要件を満たすこと。

i) 主担当医として「研修手帳 (疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上 (外来症例は 20 症例まで含むことができます) を経験することを目標とします。その研修内容を日本内科学会の専攻医登録評価システム (J-OSLER) に登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例 (2023 年度以前登録専攻医は計 160 症例) 以上の症例 (外来症例は登録症例の 1 割ま

で含むことができます）を経験し、登録済みです。（P. 99 別表 1「内科専攻研修において求められる「疾患群」「症例数」「病歴要約提出数」について」参照）

ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理（アクセプト）されています。

iii) 学会発表あるいは論文発表を筆頭者で 2 件以上あります。

iv) JMECC 受講歴が 1 回あります。

v) 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に 2 回以上受講歴があります。

vi) 日本内科学会の専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門医研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性があると認められます。

- ② 当該専攻医が上記修了要件を充足していることを福岡赤十字病院内科専門医研修プログラム管理委員会は確認し、研修期間修了約 1 か月前に福岡赤十字病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

〈注意〉「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 1～2 年間＋連携・特別連携施設 1～2 年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長することがあります。

10) 専門医申請にむけての手順

① 必要な書類

- i) 日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書
- ii) 履歴書
- iii) 福岡赤十字病院内科専門医研修プログラム修了証（コピー）

② 提出方法

内科専門医資格を申請する年度の 5 月末日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します。

③ 内科専門医

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで、日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります。

11) プログラムにおける待遇、ならびに各施設における待遇

在籍する研修施設での待遇については、各研修施設での待遇基準に従う（P. 21「福岡赤十字病院研修施設群」参照）。

12) プログラムの特色

- ① 本プログラムは、福岡・糸島医療圏南部の中心的な急性期病院である福岡赤十字病院を基幹施設として、福岡県及び近隣の医療圏にある連携施設・特別連携施設で内科専門医研修を行い、超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練します。研修期間は基幹施設 1～2 年間 + 連携施設・特別連携施設概ね 1～2 年間の 3 年間になります。

- ② 福岡赤十字病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践する。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- ③ 基幹施設である福岡赤十字病院は、36 診療科（外科の細分化専門科を含む）、511 床を有し、ヘリポートも併設した福岡・糸島医療圏南部の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディージーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

また、災害時における国内外への医療チームの派遣など災害救護、国際医療救援活動にも携わり、社会貢献にも力を入れています。さらに、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

福岡赤十字病院の内科系診療科（区分）としては、「総合診療科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「糖尿病・代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液・腫瘍」、「脳血管・神経」、「膠原病」、「感染症」内科を標榜しています。「救急」は病院全体として救急車の受け入れを行う「救急科」と全診療科で対応していますが、入院になった場合、その多くを内科系診療科が担当しています。内科専門領域の 12 領域では「アレルギー」が専門科として標榜していませんが、「アレルギー」疾患は呼吸器や膠原病内科を主としてほぼ全科で対応可能で、さらに連携施設の福岡病院ではアレルギー科を標榜しており、専門性を深めた研修も可能です。目標 70 疾患群（終了認定は 56 疾患群以上）の 9 割以上は福岡赤十字病院単独でも経験可能と推測されます。さらに連携施設（P. 21 福岡赤十字病院連携施設一覧参照）と専門研修施設群を構築することにより、ほぼ全疾患群の経験が可能と考えられます。

- ④ 基幹施設である福岡赤十字病院及び連携病院での 2 年間（専攻医 2 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、80 症例以上を経験し、日本内科学会の専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます（実際は 70 疾患群の 9 割程度の経験が可能と推測しています）。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P. 99 別表 1「内科専攻研修において求められる「疾患群」「症例数」「病歴要約提出数」について」参照）
- ⑤ 福岡赤十字病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修 2 年目から 3 年目の間で 1 年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- ⑥ 基幹施設である福岡赤十字病院及び連携病院での 3 年間（専攻医 3 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の主担当医としての診療経験を目標とします。（別表 1「内科専攻研修において求められる「疾患群」「症例数」「病歴要約提出数」について」参照）少なくとも通算で 56 疾患群、120 症例以上を主担当医として経験し、日本内科学会の専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します。

13) 継続した Subspecialty 領域の研修の可否

- ・カリキュラムの知識、技術・技能を深めるために、総合内科外来（初診を含む）、Subspecialty 診療科外来（初診を含む）、Subspecialty 診療科検査を担当します。結果として、Subspecialty 領域の研修につながることはあります。
- ・カリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

14) 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医は日本内科学会の専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は毎年 8 月と 2 月とに行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧し、集計結果に基づき、福岡赤十字病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

15) 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先
日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

16) その他
特になし。

指導医マニュアル

- 1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割
 - ・ 1 人の担当指導医（メンター）に専攻医 1 人が福岡赤十字病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
 - ・ 担当指導医は、専攻医が web にて日本内科学会の専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
 - ・ 担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、都度、評価・承認します。
 - ・ 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センター（仮称）からの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
 - ・ 担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
 - ・ 担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2 年修了時までに合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行います。
- 2) 専門研修プログラムにおける年次到達目標と評価方法、ならびにフィードバックの方法と時期
 - ・ 年次到達目標は、P. 70 別表 1「福岡赤十字病院内科専門研修において求められる「疾患群」、「症例数」、「病歴提出数」について」に示すとおりです。
 - ・ 担当指導医は、臨床研修センター（仮称）と協働して、3 か月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による J-OSLER への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
 - ・ 担当指導医は、臨床研修センター（仮称）と協働して、6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
 - ・ 担当指導医は、臨床研修センター（仮称）と協働して、6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
 - ・ 担当指導医は、臨床研修センター（仮称）と協働して、毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。評価終了後、1 か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形成的に指導します。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形成的に行って、改善を促します。
- 3) 個別の症例経験に対する評価方法と評価基準
 - ・ 担当指導医は Subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価を行います。
 - ・ J-OSLER での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリ作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っている第三者が認めう

- ると判断する場合に合格とし、担当指導医が承認を行います。
- ・主担当医として適切に診療を行っているとは認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医に **J-OSLER** での当該症例登録の削除、修正などを指導します。
- 4) 日本内科学会の専攻医登録評価システム (**J-OSLER**) の利用方法
- ・専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
 - ・担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います。
 - ・専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
 - ・専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード (仮称) によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
 - ・専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医と臨床研修センター (仮称) はその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
 - ・担当指導医は、日本内科学会の専攻医登録評価システム (**J-OSLER**) を用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断します。
- 5) 逆評価と日本内科学会の専攻医登録評価システム (**J-OSLER**) を用いた指導医の指導状況把握
- 専攻医による日本内科学会の専攻医登録評価システム (**J-OSLER**) を用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき、福岡赤十字病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。
- 6) 指導に難渋する専攻医の扱い
- 必要に応じて、臨時 (毎年 8 月と 2 月とに予定の他に) で、日本内科学会の専攻医登録評価システム (**J-OSLER**) を用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価 (内科専門研修評価) を行い、その結果を基に福岡赤十字病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。
- 7) プログラムならびに各施設における指導医の待遇
- 福岡赤十字病院給与規定によります。在籍する研修施設での待遇については、各研修施設での待遇基準に従います。(P. 21「福岡赤十字病院研修施設群」参照)
- 8) FD 講習の出席義務
- 厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。
- 指導者研修 (FD) の実施記録として、日本内科学会の専攻医登録評価システム (**J-OSLER**) を用います。
- 9) 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」(仮称) の活用
- 内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため、日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」(仮称) を熟読し、形成的に指導します。

10) 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先
日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

11) その他
特になし。

別表 1. 内科専攻研修において求められる「疾患群」「症例数」「病歴要約提出数」について

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ(一般)	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ(高齢者)		1	
	総合内科Ⅲ(腫瘍)		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
	外科紹介症例	2以上		2
	剖検症例	1以上		1
	合計	120以上 (外来は最大12)	56 疾患群 (任意選択含む)	29 (外来は最大7)

補足

1. 目標設定と修了要件

以下に年次ごとの目標設定を掲げるが、目標はあくまで目安であるため必達ではなく、修了要件を満たせば問題ない。各ブ

ログラムでは専攻医の進捗、キャリア志向、ライフイベント等を踏まえ、研修計画は柔軟に取り組んでいただきたい。

	症例	疾患群	病歴要約
目標(研修終了時)	200	70	29
修了要件	120	56	29
専攻医2年修了時 目安	80	45	20
専攻医1年修了時 目安	40	20	10

- 疾患群：修了要件に示した領域の合計数は41疾患群であるが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。
- 病歴要約：病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。
- 各領域について
 ①総合内科：病歴要約は「総合内科Ⅰ（一般）」、「総合内科Ⅱ（高齢者）」、「総合内科（腫瘍）」の異なる領域から1例ずつ計2例提出する。
 ②消化器：疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。
 ③内分泌と代謝：それぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。例）「内分泌」2例＋「代謝」1例、「内分泌」1例＋「代謝」2例
- 臨床研修時の症例について：例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。登録は最大60症例を上限とし、病歴要約への適用については最大14症例を上限とする。

別表 2

福岡赤十字病院内科専門研修週間スケジュール（例）

消化器内科

	月	火	水	木	金
午前	早朝医師連絡会				
	上部内視鏡検査	上部内視鏡検査	X線検査	新患専門外来	上部内視鏡検査
午後	ESD 介助	再診専門外来	ESD 介助 大腸 EMR	大腸内視鏡検査	病棟回診
夕方	検診センター MDL 読影	画像カンファレンス	内科カンファレンス	病棟カンファレンス	初期研修医の指導

※5日に1回オンコール当番(緊急内視鏡、他科コンサルト、など)

腎臓内科

	月	火	水	木	金	土・日
--	---	---	---	---	---	-----

午前	医師早朝連絡会					
	透析当番	抄読会	腎生検	入院患者 カンファレンス	手術・病棟診療	透析当番 4 (月 2 回程 度)
		透析穿刺		病棟診療		
午後	CAPD 外来	病棟診療	PTA・病棟診療	腎生検組織 カンファレンス		
	病棟診療			部長回診		
			腎移植 カンファレンス			
				内科 カンファレンス		
	夜間透析当番、内科当直、研究会参加など					

循環器内科

	月	火	水	木	金	土
午前	CCU カンファレンス					終末日当直 (1-2 回/月) 終末 on call (2-3 回/月)
	病院早朝連絡会					
	CCU 回診	心カテカンファレンス・心外症例検討会			心カテ・心外カンファ 抄読会	
	心カテカンファレンス 心外症例検討会					
	病棟・心カテ(循環器急患当番 3 回/週、生理検査担当 2 回/週、負荷心筋シンチ担当 1 回/週)					
午後	病棟回診	病棟・心カテ(循環器急患当番 3 回/週、 内科時間外・午後当番 2 回/月)				
	病棟・心カテ (急患対応)					
		内科カンファ レンス				
	当直(1/週)、on call(2-3 回/月)					